

**【参考資料】第69回研究大会のまとめと反省
(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)**

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと	II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項
III 大会前の諸準備、諸会合について 会場校の決定、地区研、事前研、資料など	IV 大会当日の運営や内容について 日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど
V 各研究部独自の意見や要望	○…成果 ●…改善点及び課題 △…提案

<国語部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

(1) 研究授業等

- 「工夫点」→「根拠」→「効果」という型を示すことで、生徒の思考の流れに沿った展開になっていた。
- 生徒の実態に応じた課題設定で、付けたい力を焦点化することができていた。
- 生徒の学習状況を把握し、明確な指示や机間指導での助言につなげていた。
- ロイロノートを活用し、生徒の考えを整理したり共有したりできていた。
- ロイロノートと手書きのノートのハイブリットが効果的だった。
- 端的に分かりやすい指示のため、生徒は何に取り組むべきか分かり、安心して学習活動に取り組むことができていた。
- 生徒の意見を尊重する言葉もあり、生徒が発言しやすい環境をつくっていた。
- 生徒の意見から授業を展開することで、課題意識も高まっていた。
- 意見をまとめる際の型や具体例を教師が示し、生徒は課題に取り組みやすかった。

【富山地区】

(1) 授業力向上のためのアドバイザー講義

「演題：多面的な見方・考え方を育てる説明的文章の授業づくり一批判的読みを取り入れて一」
講師：神戸女子大学教授 吉川 芳則 先生

- 部会協議①とアドバイザー講義の内容につながりがあり、効果的だった。
- 教員が批判読みや論理的思考を生かす活動を単元（一時間）の中に1箇所でも意識的に位置付けることが大事であると分かった。
- 批評の視点として「よい点」を見付ける方がよいのではないか、という話を聞き、なるほどと感じた。
- 「批判的に読む」ことは、あらさがしをすることではなく、根拠に基づいて物事を多面的に考えることだと学べた。

【高岡地区】

(1) 研究授業等

- 友達の発表や意見から学んだことを全体発表させるのは効果的だった。
- 話し合いで、赤と青のペンで聞いた意見を色分けしていたのがよかつた。
- 論理的に考えられるように、ワークシートが工夫されていた。
- 登場人物の心情の変化や作者の考え方を捉える手立てとして、言動や伏線に注目して物語を読み進めることで、同じ叙述に着目していても一人一人の解釈や理由が違つており、新しい気付きや考えを得る生徒が多かった。
- 今年度から教科書に掲載された教材についての新たな授業実践だったので、興味深く学べ、今後の授業づくりの参考になった。

(2) 授業力向上のためのアドバイザー講義

「演題：多面的な見方・考え方を育てる説明的文章の授業づくり一批判的読みを取り入れて一」
講師：神戸女子大学教授 吉川 芳則 先生

- アドバイザーの先生が変更になり、新しい学びがあった。
- 教科書に掲載されている教材を取り上げ、批判的な読みを取り入れた多面的な見方・考え方を育てる授業づくりについて具体的に教えていただき、参考になった。

【砺波地区】

(1) 研究授業等

- 前時の学習の見取りが生かされたグループ編成になっていた。
- 言葉で相手の思いや考えを引き出す学習活動が設定されていた。
- インタビューの目的が明確で、一問一答にならないような働きかけがあった。
- 質問者と回答者、聴衆に分かれてインタビューと振り返りを行い、それを三回繰り返すことで、質問を吟味しようとする姿が見られた。
- 研究発表は「砺波・小矢部」「南砺」で6月に行った研究授業についての発表をそれぞれの授業者

が行い、協議会の内容や指導助言を受けての改善指導案を提示し、研究授業での学びを自分(授業者)の学びにつなげていた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

(1) 研究授業等

- △自分の考えを書くときには 今までのワークシートを参考にするなど、材料を手元にもたせるとよい。
- △教員の意図的指名により工夫点を取り上げていたが、ロイロノートの一覧性を生かして、生徒に考えさせる方法もある。
- △本論の構成や展開の効果について考えることができていたが、文章全体の効果を考えるには至らなかつた。
- △振り返りは、個人に返して、学びを自覚させることもあればよかつた。
- △筆者の論理の展開で「説得力がない」「効果的ではない」といったマイナスの部分を出させることも、学習としては必要ではないか。
- △型があつたり視点が絞られたりすると生徒が考えやすくなる一方、生徒の考えが制限されてしまうことがある。どのような発問にしたり手立てにしたりするのか、検討が必要である。
- △ロイロノートを用いて、人の考えを自由に見たり、人とカードを交換したりできればよいのではないか。
- △時間との兼ね合いかが、根拠を明確にして生徒が共有する場面があればよい。
- △指導事項を念頭において展開を考えていく必要がある。
- △筆者の説明の工夫の効果について考える内容であったが 出てきた工夫点の中から一つをとり上げ 本文に戻って全員で確認する場面があれば、理解が深まつたのではないか。

【富山地区】

(1) 研究授業等

- △生徒たちの「問題発見能力」(導入～課題提示までをいかに生徒自身が生活と結び付けられるか)、「問題解決能力」(生徒の実態を知り、課題の解決にどのようなツールが必要か)を引き出せるよう、全てを生徒に委ねるのではなく、教師自身が仕組んでいくことが必要だと感じた。

【高岡地区】

(1) 研究授業等

- △「個別→グループ→全体」という話合いの手順だったが、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためには、全体発表の時間が短く、他の班の意見や考えにふれないと一部の意見に注目することになった。時間配分の見直しやICT活用等の工夫が必要だと思われた。
- △協議会①については、グループ協議の時間が短く、意見交換に至らなかつた。グループ協議ではなく、全体会形式で、授業者と意見や質問のある先生との直接的なやりとりの時間が確保されたらよい。協議会のもち方においても、検討していく必要がある。

【砺波地区】

(1) 研究授業等

- △生徒が自分事として活動に取り組むことができる学習課題と学習活動の設定が必要である。
- △指導事項に照らした合わせた振り返りの観点が必要である。
- △身に付けさせたい資質・能力に向かうための手立てに工夫の余地がある。
- △答える内容を入念に準備した結果、一問一答になつてしまっていた班が見られた。どのような質問がより聞き手の思いを引き出せるのか考えさせる工夫が必要である。
- △教師から与えられた観点だけでなく自分でイメージに迫る観点を見つけさせる余地があるとよい考え方の変容が自覚できる振り返りの工夫も必要である。
- △今回の単元では 本時の後に短歌を創作したり鑑賞文を書いたりする活動につながっているが書くための「読む」にならないようにすることに留意する必要がある。読む活動では、読むことに集中し、それによって「何が分かったか」「どんな力を付けたのか」を生徒自身が自覚させることを意識して学習活動を設定するとよい。
- △協議会は、3市の教員で経験年数も踏まえた4人グループでの協議とした。少人数で話しやすいメリットはあるが、固定グループでの話合いではなく、付箋等で意見を可視化した後、話したい相手を選んで話すなど、いろいろな先生方と意見交換できるようなやり方もあるのではないか。

III 大会前の諸準備、諸会合について (特に問題点や要望があれば)

- 部会協議①のグループ分けを、事前に地区内の市部長同士で話し合って行えたのがよかつた。年齢やキャリアがなるべく偏らないように工夫できた。
- △事前に協議の班や座席が分かっていた方が、受付がスムーズになると思う。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

【新川地区】

○部会協議①のグループ協議は、授業の見方や他校の実践等を知る好機になった。

△教員数が減っているため、研究大会のもち方を見直す必要があるのではないか。

【例】研究授業と部会協議①のみとする。また、2～4年に一度アドバイザー講義を実施し、その年は研究授業を行わない。

△2年目の若手教員で準備や計画が大変だったのではないか。前年度に決まった授業者に異動等があつても、原則として授業者に変更はないよう規定できないか。

△部会協議①の準備のため、休憩は15分あるとよい。

△部会協議①では、授業者の自評後に質疑応答の時間があると、その後の協議も深まるのではないか。

【富山地区】

△項目の精選や頁数制限等、指導案をスリム化し、授業者の負担軽減を図れないか。

△クロムブックや資料を参照できるよう、机がある場所だとありがたい。

△マイクの音声が聞き取りにくく、配慮が必要だと感じた（音声が反響して、アドバイザーの言葉が聞き取りにくいときがあった）。

【高岡地区】

○アドバイザーの先生の話が授業実践に役立つとの意見が多かったので、今後も講師の先生の話を聞く機会があるとありがたい。

○今回のような講義を、毎年の研究会で聞くことができるといい。

△遠方から来る先生方には、13時30分授業開始はややハードなので、部会協議のもち方や時間配分を工夫し、開始時間をもう少し遅らせることができないか。

△部会協議①の時間が短かったので、もう少し話し合う時間があればよかったです。

【砺波地区】

○13時50分から受付としたので、時間に余裕をもって参加でき、運営委員も給食を食べてから集合できた。

△紙上発表のみにすればどうか。「砺波市・小矢部市」「南砺市」から各10分の発表+指導助言5分で約30分程度の時間を確保したが、授業についての協議会が長引き、十分な時間が取れなかった。また、6月の授業者が11月の発表も行うことになり、負担が大きい。

△アドバイザー講義があると授業について協議する時間がかなり少なくなる。アドバイザー講義がある年度は研究授業を行わず、講義のみとすればどうか。

△グループ協議後の全体発表をせず、ワークシートを後日共有する形をとれば、振り返りもしやすく協議時間を確保できる。

V 各研究部会独自の意見や要望

●今回アドバイザーの送迎に関してタクシー会社に断られたり、バス路線が廃止になったりなど二転三転し、対応が難しかった。部会だけでは判断できないことも多く、何度も事務局に確認の電話をすることになった。また、当日不測の事態が起き、アドバイザーから会場校に連絡があり対応できたが、当日の交通手段に関しては、事務局に一任できるとありがたい。

△高岡地区では例年、協議会1を班でを行い、活発な意見交換があるが、その共有の時間が少なく、毎年不満が出ている。難しいとは思うが、高校のように1日開催にできないか。

●年齢や経験年数を踏まえた授業者の選定に苦慮している。

●市による教員の年齢構成の違い等から、研究大会の負担感に偏りがある。

●経験の浅い教員が提案授業をせざるを得ない状況になっている。会場郡市の部会員が協力し、指導案検討や模擬授業を行う必要がある。

●8年サイクルローテーションになってはいるが、講師や再任用の教員が多く、研究授業を引き受けられる会員が3名しかいない。3名で授業者や市部長、地区の作問委員を務めなければならない現状である。

<社会部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

○授業の導入で見通しをもたせることで課題意識をもって授業に臨めるため、積極的に活動に参加する生徒が多かった。

○「死刑制度」をテーマとした難しい議論であったが、議論の視点や資料の吟味の仕方等について学ぶことができ、非常に勉強になった。

○資料の精選（賛成、反対それぞれの主張が取れる資料がバランスよく用意されていたこと）のおかげで、議論が深まっていたと考えられる。社会科の「見方・考え方」を育成するために、まずは資料の読み取りが能力として必要であることを再確認できた。

○実際に授業を参観すると、教師の発問に対する生徒の表情や息づかいが分かり、改めて現地で参観させていただく研究大会の必要性を感じた。

【富山地区】

<授業>

- 紙とインターネットによる模擬投票を実際に体験することで、生徒は選挙の仕組みや制度の意義に実感をもって理解することができた。また「効率」と「公正」という視点から主体的に考察する姿が見られた。
- 学習の進め方や調べ方を生徒自身が選択し、級友と協働して課題解決を目指す学習形態を設定することで、主体的に学び合おうとする意欲や自らの考えを表現しようとする態度が高まった。
- 個別の追究活動やグループでの話し合いを通して、生徒同士が多様な意見に触れながら、現行の選挙制度について考察することができた。
- 教師が提示した資料を活用し、他の選挙制度と日本の選挙制度を比較したことで、現行の選挙制度を多面的・多角的に捉えることができた。

<研究発表>

- ICTを活用した自由進度学習の実践について紹介があった。生徒の追究意欲を高める学習課題が設定されており、生徒がICTを活用して他者の意見を参考にしたり、学習の見通しをもって取り組んだりすることができる効果的な実践例であった。

【高岡地区】

- 個別最適な学びを実現するための手段として、単元内自由進度学習の取組、自由進度学習に興味をもつ教員が増えた。
- 授業までの取組を資料で配布していただいたおかげで、授業の見る視点を整理することができた。
- 教材研究がなされており、単元構想と学習内容の意図が明確になっていた。また、単元を貫く問い合わせ意識し続けることで、自由進度学習が効果的だった。
- 毎年同じ時期に実施しているため、扱う内容も同じようなところになり、マンネリ化している印象だったが、今回は東北地方を先に扱うという工夫があり、新鮮な感じがしてよかったです。今後もそのような工夫があつてもよい。

【砺波地区】

- これまでに研究大会では見られなかった、3年生公民分野の「経済活動と私たち」の単元内にある「家計と消費」について取り扱った。家計管理アドバイザーとなり、消費活動やアドバイスを伝える活動を通して、希少性の見方・考え方を働きかせながらどのような消費者になればウェルビーイングの向上につながるかについて考える実践であった。
- 生徒が家計管理アドバイザーとして、顧客に説明するというロールプレイング形式で発表する場面を設けた。顧客からの質問にも対応する必要があるため、様々な見方・考え方で消費活動について考えることができた。
- 部会協議では、会員を若手・中堅・ベテランと混ぜた3つのグループに分け「主題解説や視点等」について、生徒の様子や効果的であったこと、「主題解説や視点等について、提案や改善したらよいと思われること・疑問点」について話し合った。拡大した指導案に付箋を貼り、意見交換することで、学び合う貴重な機会となった。
- 8月末には授業者がおおよその指導案を作成し 小矢部市・砺波市・南砺市の部長と共に検討したその後、授業者が訂正し、再び各市の部長で確認を行った。9月上旬に、指導助言の先生に指導案を確認していただくことで、日程的に余裕をもつて研究発表資料を完成することができた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- 話合いを生徒に任せて、教師はねらいから外れないように「交通整理」の役割を果たすことも可能であったと思われる。
- 人権の単元であることを考慮することや、憲法の条文をベースに考え、統計資料や判例資料等はあくまでも「憲法の条文」や「憲法に規定している権利」を「より具体化するもの」として扱う意識があればよいと感じた。
- どこにまとめを求めるかについて教師自身が把握し、単元の中で本授業がどこに位置付いているのかを確認する必要がある。
- △単元構成と評価のつながりを考えておくことで、生徒に学習内容を意識させることができ、学びが深まる感じた。
- △授業の協議会は、より能動的に研修を進めてもらうために、グループで意見を出し合った後に発表してもらう流れの方が、より学びが深まるのではないか。

【富山地区】

<授業>

- 本時の学習課題がやや抽象的であったため、活動内容や生徒の実態とより密接に関連付け、生徒が自分ごととして捉えやすい具体的な学習課題を設定する工夫が求められる。
- グループ活動の中で発言や意見の偏りが見られた。ICTを活用して、全員が意見を出し合えるような仕組みを整えることで、時間の効率化を図るとともに、重点的に取り組みたい学習活動をより

充実させることができる。

- メリットやデメリットを整理する活動においては、具体的な視点をあらかじめ示すことで、生徒が論点を明確にしながら多面的・多角的に思考を深められるよう支援することが重要である。

【高岡地区】

- これだけ学習専用端末が使われて時間が経っている中で、市社会科部会としてどのような活用方法があるかを検討していく必要がある。
- 他市や他県に遅れを取ることなく、学校DXを更に推進していく必要がある。
- 授業会場が狭く、生徒の活動や教師の指導が参観しづらい場面が多くあった。
- 生徒が調べたことを発表に使うと誤情報が含まれている可能性があるため、正しい知識を教師側でおさえる必要がある。
- クラゲチャートを共有する際、質問内容や視点は準備されていたが、生徒が十分に意識できていらず、学び合いに深まりがなかったように感じられた。

【砺波地区】

- 授業の終末の「本時のまとめ」と「単元を貫く課題についてまとめる内容」が似ており、何を書けばよいのかが分からず戸惑っている生徒がいた。毎授業では「本時のまとめ」に絞り、単元の最後に、既習事項を基に「単元を貫く課題」について考える時間を設ければ、生徒の思考がより深まると考えられる。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば：特になし）

【高岡地区】

- 4 資料の製本や配布 等
- 変更等の連絡をもう少し余裕をもって知らせるとありがたい。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

【新川地区】

- アドバイザーの講演では、日々の授業づくりに関する基本的な考え方だけでなく、明日から使える実践的な話に至るまで示唆に富んだ話を聴かせていただいた。今後も、継続して講演をお願いしたい。
- 運営に関しては、郡市単位で進めることが基本であるが、人数や経験年数が浅い教員も増えてきているため、今回のような形で協力・役割分担を行って上手く運営していくことが今後必要になってくると考えられる。今年度は下新川郡の中学校が授業校だったが、部会責任者を魚津市の教員が務めた。また、どの都市に運営役が回ってきてても対応ができるように、マニュアル（司会原稿、役割分担表等）を作成することが大切であると感じた。
- 校内導線が分かる教員が大会運営に必要な役割を考え、部会責任者に連絡をするなど、連携していくとよい。

【富山地区】

- 諸事情により研究授業が1つのみの実施となったため、約70名の部員が一つの会場で参観することとなり、生徒・会場校・授業者のいずれにも負担が生じた。

【高岡地区】

- 2 研究授業
- 生徒の学習内容や情報を共有できるアプリがあれば、より協働的な学びができると考える。
- 参観中に話をしたり生徒に話しかけたりする教員がいたことが大変残念であった。以前アドバイザーとして本部会で講演してくださった米田教授は「参観者は鉄仮面になれ」と言われており、参観する側の姿勢や態度について、改めての周知徹底が必要だと感じた。

4 研究協議

- 研究協議ではあらかじめ班分けがしてあり、活発な協議をすることができた。
- グループ協議の時間配分が短かったため、他市の先生方ともっと交流できるような工夫が必要である。

【砺波地区】

- 協議会①の時間を「授業者の自評3分」「グループ協議10分、各グループの発表7分、指導助言20分」と設定していたが、グループ協議の時間がかなり短く、話合いが深まりきらなかつた。協議会②（今年度はアドバイザーによる講演）との兼ね合いも含め、より充実した学びの場となるように、時間配分や協議内容について検討が必要である。

V 各研究部会独自の意見や要望

【新川地区】

- 社会科部会の部員数が減ったり中堅の年齢層が少なかつたりするため、これまでのような研究授業中心のスタイルではなく、年ごとにテーマを決めて研究を進めていくこともよいのではないか。

【砺波地区】

- 毎年、研究大会が開かれる時期が同じであるため、研究発表の内容が毎年被ってしまう。日程をずらしたり、授業者が単元を入れ替えて授業したりする工夫が必要である。

<数学部会>

研究大会の成果について（研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等について）

- 生徒の日常に即した題材を利用して、その課題について数学を使って解決する授業や生徒が教えあう場面を設定する授業等が提案され、研究主題に沿った授業提案がなされていた。また、講演については、数学的な見方・考え方を働かせる場面や統合的・発展的な学びになるヒントを提示いただき、教師の学びを深める機会となった。

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- 授業者への負担を軽減するため、トライの授業を近隣の中学校が行うことで、部員が自分事として当日を迎える教員が増え、協議会に広がりや深まりが生まれたり、一緒に取り組んでいる雰囲気が醸成されたりするなど、効果があった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 授業参観が多く、普通教室には入りきれない状況から、会場校では体育館で授業するなどの工夫がみられる。会場校の負担を減らすため、モニター等を用いて別室で参観することも検討するものの、モニターでは生徒の声が聞き取りづらいことやカメラやモニターを複数台設置することが必要となる。

△上記の改善策として、エリアを小さくして公開授業を設定する方法も考えられる。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

- ・指導案について、検討することなく公開授業を迎えていたりする地区では、8月下旬に行われる県中教研の部会を活用する案が出された。指導案検討に関わることで当日の協議会も焦点を絞って参加できるとの意見があり、各地区で検討する。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

- 授業後、10分の休憩で協議会に入っていたが、指導助言者からは10分で助言内容をまとめてもらうのは困難であり、配慮が必要であった。また、協議会において、研究主題に沿った議論にするためには司会者が焦点化した進行が求められるとの意見があり、限られた時間の中でも協議内容をさらに深められるよう工夫をしたいとの声があった。

V 各研究部会独自の意見や要望

- ・授業実施時期が決まっており、他の分野や単元を公開するためには、指導計画を入れ替える必要が生まれる。しかしながら、中教研学力11月調査の範囲を終わる必要もあり、実現には障壁となっている現状がある。
また、各都市においては、公開授業を行っているものの、互いに授業を見合う機会は限られており、各地区での授業公開は大変貴重な機会と考えられている。
△そこで、授業実施時期を10月、または、11月のいずれかから選べるように設定するなど、実施時期を柔軟に実施することはできないか。そうすることで、分野や単元を選べるなど、柔軟な対応が可能となることに加え、学校によって校内行事等との重なりを避けることが可能になると考えた。

<理科部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- 生徒たちが日常生活の経験から仮説を設定し、実験を通して解決していく流れができていた。
- 生徒たちが互いに協力して実験を行い、課題を探究する姿が見られた。
- 生徒自身が実験の目的を意識して条件制御を行ったことで、主体的に考え、論理的な考察につながっていた。
- 前時の実験結果を比較・分析して、新たな疑問から本時の課題を設定したこと。
- ロイロノートで、自分の班の仮説と他班の仮説を共有できた。
- 生徒が、日常の現象と結び付けて課題を考えられた。
- 前時の結果から、グラフの傾き（=変化の割合）が何によって変化するのかと、考えを深め、更なる探究につなげられた。
- 自分自身の授業構想を練り直すことができた。目指す授業が実践できた。
- 発展的な内容として試験管笛を教材として取り入れていた。身近な物を用いて体験させることができた。
- 自らの仮説が正しかったかどうかを個人で振り返る時間を設定していた。全体共有の後、個人に再び返す時間の確保が考察の深まりにつながると感じた。

【富山地区】

- 2年生の授業は、季節の天気の特徴を表す雲画像や天気図を選び、根拠をもって分析したり、同じ季節を担当するグループで情報交換したりしながら、雲画像や天気図の分析・解釈することを目指す授業であった。生徒自身に雲画像や天気図を選ばせたことで、その根拠を明確にする必要性が感じたことが主体的な学びにつながった。さらに、同じ季節を担当する生徒同士で情報交換し、自分のデータと比較させることで、より深い分析・解釈をすることができた。また、ICTを使うことにより、雲画像と天気図を比較しながら分析できるという利点があった。
- 3年生の授業は、仮説を基に考えた実験を行い、浮力の大きさが決まる要素について根拠をもって説明することを目指す授業であった。生徒は前時までに仮説や条件制御の目的をよく考えており、さらに本時では他のグループに説明する時間を設けたことで、生徒自らが班ごとの結果を意識したり関係付けたりしながら、浮力の大きさが決まる要素について、根拠をもってまとめる姿が見られた。また、生徒はプレゼンソフトで情報をよくまとめており、結果の共有がスムーズであった。
- アドバイザーによる講義では、学習指導要領改訂のポイントがよく分かり、何を重視すべきなのか分かりやすかった。授業改善に効果的な講義であった。

【高岡地区】

- 発展的な内容として試験管笛を教材として取り入れていた。身近な物を用いて体験させることが理科の学習には大切であると再認識できた。
- 自らの仮説が正しかったかどうかを個人で振り返る時間を設定していた。全体共有の後、個人に再び返す時間の確保が考察の深まりにつながると感じた。
- 振動して音を出しているものは何か仮説を立て、実験方法を立案して実験を行い、得られた結果を考察するという、探究の過程を中心においた流れが工夫されており、参考になった。
- 生徒自身が実験の目的を意識して条件制御を行ったことで、主体的に考え、論理的な考察につながっていたと感じた。
- 各市の研究発表の時間が十分に確保されており、それぞれの取組内容をよく知ることができて分かりやすかった。

【砺波地区】

- 実験で着目すべき視点を絞ることで理科の見方・考え方を働かせる場面を生徒に意識させることができた。
- ICTを用いた授業展開によって結果が見えやすく、話合い活動につなげられる。
- 指導案を検討するにあたり、①授業者の所属校での検討、②市研究会での検討、③地区研究会での検討の順で行った。③では、3市の部長が混ざっての見当であったため、県中教研が目指すべき視点を明確にしながら、活発に協議することができた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- 各班の実験で調べること（重さ・高さ）をあらかじめ決め、実施する方法でも良かった。
- ・時間設定について
 - 仮説の設定、実験方法の計画、実験、分析・考察等の活動に十分時間を設けることが重要である。本日の学習でポイントとなる活動に十分な時間を確保した授業展開の工夫が必要だと感じた。
 - 前時のグラフを見比べて、互いに意見を出し合い課題を設定する時間を確保する。
 - 実験結果をまとめる時間を確保するなど、時間を区切って進める必要がある
 - 実験で調べる内容が多すぎたため、ある程度 時間の見通しをもって進める必要がある。
- ・活動に対する事前指導
 - 結果のまとめに集中し、実験に参加できていない生徒がいたため、班員全員で実験に取り組むよう指導があるとよいと感じた。
 - 生徒同士で、仮説を共有する場面やその根拠を話し合う場面設定が必要である。
- ・課題設定について
 - そもそも何を解明するために、本時の課題があったのか。本時の課題が今後何を解明することにつながっていくのかがよく分からなかった。
 - 学習課題の設定が一方的に感じた。グラフの傾きの違いについて生徒がもっと意見を交わす時間があればよかったです。
- ・展開の工夫
 - 生徒の班活動で終始していたので、全体での情報交換や全体での情報共有等をする活動場面があればよかったです。
- ・指導案の工夫
 - 指導案に、前時（まで）にどのように何をしてきたのかが（具体的に）分かるようにしておくと、本時の展開についてもよく研究できると思った（計画は載っていたが、ああいうのではなく…）。

【富山地区】

- △授業において、課題の出発点を生徒の疑問（素朴な概念）にしたら、より探究的に取り組めるのではないか。
- △生徒が考えた実験方法や調査の仕方等も発表させたり共有させたりしたら、より考えを深めることができるのでないか。

【高岡地区】

- 研究授業で用いられた試験管笛は、試行錯誤して生徒自らが実験条件を設定できるよさがある一方で、条件制御の正確性が低く振動しているのは水面か空気か検証できない、試験管のどの部分の振動をおさえているのかグループごとに異なるなど、帰納的に結論を導くには難易度の高い題材であった。
- 同じ仮説を立てた生徒同士でグループピングされており、グループ内で自分たちの仮説に対する批判が出にくい状況だった。他のグループの実験を検証してみたり、意見を交換したりする機会があればよかったのではないか。

【砺波地区】

- 目的意識をもつための工夫が必要。
- 教師が司会をして進めるような授業展開は改善が必要。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

1 会場都市、会場校の決定

【富山地区】

- 授業校の理科教員が少なく、部会で授業案を検討する際も本時案の検討が中心となってしまった。部会を設定する時間も限られているので、授業者への負担が大きくなってしまった。

【砺波地区】

- △市の枠組み自体が小さく、市ごとに会場を回していくことには限界を感じられるので、地区全体の人で会場を回していくべきではないか。

2 地区研究会

【砺波地区】

- 学校の規模が小さくなり、教員数が減って毎年のように中教研の運営に関わる中で、春も秋も運営に関わることには負担を感じる。地区の運営委員は市の運営委員とは別の者がなるなどすれば、多少は負担が減ると考える。

3 資料の編集及び事前研修会

【高岡地区】

- 資料の製本から配付までの期間が短く、かなりタイトなスケジュールだと感じた。
- 資料の配布について、配布の催促をする連絡が他校からあった。各校へは、配布日をいつと連絡してあるのか、可能であれば教えていただきたいです。

【砺波地区】

- 学校の規模が小さくなり、授業者や部長、研究推進委員といった運営委員が別々の学校にいるためデータでのやり取りのみが続くことに難しさを感じる。授業者と同じ学校にアドバイスできる立場の運営委員を配置できるとよい。

4 資料の製本や配布 等

【砺波地区】

- 資料を各校にデータ配布したが、部員に配布されない学校もあった。データの宛先を教頭か教務かに統一して、どのような形で送っても適切に処理してもらえるようにできないか。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

【高岡地区】

- 受付名簿から名前が抜けている会員がいたので、今後このようなことのないようにしたい。

【砺波地区】

- 会場責任者が授業担当校ではない場合には、当日の準備から片付けについてまで綿密に打合せをする必要がある。
- 部長や研究推進委員といった役員が当日、授業者の学校へ行っていろいろ準備すると結構時間がかかる。授業者と同じ学校に運営委員を配置できるとよい。

2 研究授業 特記事項なし

3 研究発表 特記事項なし

4 研究協議 特記事項なし

【新川地区】

- グループワークで他の都市と情報共有・交換ができ有意義な時間になった。
- これまで部会協議会②では、毎年都市ごとに研究されたことを発表してもらっていたが、今回は研究授業のテーマに沿ってグループ協議を行う活動をした。これまで単に参加されていた先生方もグループ協議を行うことで自らの授業実践や困り感を出し合い積極的に参加していた。
- 今回グループ協議を行ったことを踏まえて、来年度以降もテーマをしっかり決めてグループ協議を継続していきたい。
- 小グループでの協議に変更して情報交換ができたことが有効だった。
- 今後もこのような場を設けてもらえるとありがたい。
- 協議では、グループでの話し合いと全体での意見発表の時間をしっかり区別してほしい。

【富山地区】

- 授業の様子を撮影し動画等を利用して研修を進めるという工夫がされており、来ている先生方もイメージしやすいと思った。
- 部会協議①の時間が短く、なかなか協議が深まらなかった。
- アドバイザーの講演がなかったため、発表を行った。市の研修会での授業について発表したが、聞いている先生方は授業を見ておらず、あまり深まらなかった。
- アドバイザーの講演があると、協議会の時間が短く、限られた中での協議となつた。
- △研究協議は、一人一人が発言できる機会があると活発になるため、少人数での協議を行うのがよいと思った。
- △理科教員同市での関わりが少ないため、実践事例を紹介する場を設けてもよいのではないか。

【高岡地区】

- 協議会のもち方について検討する必要があると感じた。協議会①では、群市ごとに協議し、その後に全体で共有する形式にするなど、少人数での話し合いの時間を設けた方がより活発な協議会になると感じた。また、全体として予定よりも多く時間がかかった。そのため協議会②は2つの市の取組の発表であったが、ローテーションを組み、1つの市の発表だけでもよいのではないかと感じた。2つの市の取組の発表であるなら、簡単な発表（プレゼン無し）でよいと思う。
- 協議会場がアリーナであったことから、マイクの音声が反響のためやや聴きとりにくかった。

【砺波地区】

- 協議会Ⅰの時間は短かったが、限られた時間で視点をしぼって、研究授業の成果について十分に検討する時間を確保することができた。
- 協議会Ⅰでは、研究授業について付箋を用いたマトリクス法で協議した「本時のねらい」「研究主題との関連」の4つについてのマトリクスに従い、成果と改善点を挙げて話し合つことで、視点がぶれずに深まりのある協議ができた。
- アドバイザーの講義のため全体の時間が限られているので、部会協議Ⅰを十分に確保できるだけの日程を組む必要がある。本大会はグループでの協議が10分程度、発表が5分程度と大変短くて残念であった。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

【富山地区】

- アドバイザーによる講義は、学習指導要領改訂のポイントがよく分かり、何を重視するかがよく分かった。

【砺波地区】

- アドバイザー講義は、分かりやすくてよかったです。

V 各研究部会独自の意見や要望

【富山地区】

- △各校の理科教員も少なく、理科教員同士での関わりが少なくなっている。理科教員同士が関わる時間を探して、実際に他校で実践されている内容を共有する機会を設けてもよいのではないか。

【砺波地区】

- 次年度の小矢部市が全体で4人しかおらず、授業者が決まらない。

<音楽部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【東部地区】

- 拡大楽譜に生徒が付箋で意見を貼ることで、生徒がどこを意識して歌いたいと考えているのかが、視覚的に分かりやすくなっていた。
- ワークシートの掲示により、これまでの指導や学びの流れ（歌詞の分析やスプレッドシート）が可視化されていて参考になった。
- 表現を工夫する部分や表現の要素を「テクスチュア」「強弱」「構成」の3つに絞つことで、生徒が取り組みやすい追究活動になった。
- 全体で歌い試す際、様々なパターンで歌唱する活動により、よりよい歌唱方法を体感することができた。作曲者の思いや意図を感じ取って表現を工夫することにもつながると思う。
- 歌唱だけでなく、ピアノ伴奏にも注目して比較して考えたことがよかったです。また「タテの音楽」と「ヨコの音楽」の違いをピアノ伴奏の違いで感じさせていたことが効果的であった。
- 振り返りの際、スプレットシートで記録させていくことは、生徒自身も自分の変容を見ることができ、とても有効的だと感じた。また、周りの生徒と共有もできるのでよいと思う。
- 協議1では、先生方の授業構成や発問の仕方等、とても勉強になることがたくさんあった。活動を通して、生徒がどのような姿に成長できたらよいか、ゴールの姿をイメージさせることや、生徒が思いや意図をもって取り組むための声掛け等、すぐに実践できそうなことが分かり有意義だった。
- 研究課題に沿った授業を見てから、授業力向上のための講義を聴くことができたため、問題意識をもつことができた。

【西部地区】

- 前時までの指導が丁寧に行われており、生徒が自分の演奏したい「さくら さくら」のイメージをワークシートに記入できていた。また、曲にタイトルをつけさせる工夫があつたことで、生徒は自分のイメージをさらに膨らませることができた。
- 基礎練習と技能の習得のため、四つ打ちなどの基礎練習を丁寧に行い、箏の音色や強弱の違いを共通理解としてもたせていたのがよかつた。
- ICTを活用し 教師の手元を映すカメラやスクリーン共有により 視覚的な支援が効果的だったさらに、生徒同士の演奏を撮影し合うことで、客観的に自分の演奏を振り返ることができた。
- 学習端末を用いての学習内容の蓄積方法や評価の仕方、技術向上へつながるヒント動画の配信等ICTの効果的な活用があつた。ICTの使い方が先進的であり、器楽分野の幅広い音楽の楽しみ方を実感させる取り組みだった。
- 一人一面の箏が使えることにより 生徒が表現の工夫を試行錯誤する時間が確保されていた。また技術の向上にもつながった。
- 表現の工夫や技能の向上のみではなく、和楽器に触れるにあたり、礼を欠かさず指導されていたこと。そのことが、落ち着いて楽器と向き合い、弦楽器にとって、特段余韻の美しさが際立つ箏の響きにおいて、余韻を味わう意識付けにもつながっていたように感じられた。
- 協議2では、具体的な評価方法をグループで話し合ったことで、各校の取組みや知恵が共有され、学びとなつた。また、実際に評価基準を考えたことで、自分の評価を見直すきっかけになつた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【東部地区】

- 生徒の実態を把握し、生徒に合つた課題を提示する必要がある。
- 生徒の思いを書かせた付箋を生かして表現を工夫していくべき、もっと活発な活動になるように感じた。
- 「思いや意図」をもたせるために、課題意識をもたせる導入を工夫し、生徒が自ら「こうやってみたい」と思えるようにしていく手立てが必要である。
- 生徒の学習に活動における目的を明確に伝え、生徒が納得して学習を進められるような展開になるとよい。
- 曲のテクスチャや構成を、生徒にどのように意識させ工夫につなげさせるかという手立てをもっと考えたい。
- 教師主導で曲想表現を「作る」ことと、生徒に考えさせて「工夫させる」こととのバランスを考えたい。

【西部地区】

- 演奏を録音したが、周りに音が響きすぎる環境だったため、微妙な音のニュアンスを録音するのは難しいと思った。実際の音を聴き合うのがよいのではないか。
- △学び方の選択肢（①一人で追及、②友達と追及など）を設けることで、より主体的な学習が促される。
- ICTだけの助言ではなく、実際に教師が技能や演奏の工夫を指導する場面がもっとあるとよかつた。
- 一人一面の箏では音があふれ、自分の音を吟味・確認するのが難しい場面があつた。演奏を工夫する授業では、ペアやグループで互いに演奏を聴き合い、アドバイスしながら授業を展開した方が、深い学びにつながるのではないか。そのため、二人で一面でもよかつたのではないか。
- 箏を一人一面用意することは非常に困難だと思われる。数が揃わないなりにできる工夫を考えいく必要がある。
- 表現の工夫には、それに見合つた技能の習得が不可欠である。前時までにしっかりと技能を身に付けさせる必要がある。

III 大会前の諸準備、諸会合について

(1会場都市、会場校の決定 2地区研究会 3資料の編集及び事前研修会 4資料の製本や配布)

【東部地区】

- 2△リモートの活用により、出張回数を増やすことも、意見交流をすることができるのではないか。
- △授業者一人の負担にならないよう、その年の授業者の都市部員でトライ授業を行い、共有、協議するなどして、共同研究として行うという位置付けをしていくよいのではないか。
- 4○事前に様々な資料を送っていただいたので、余裕をもって目を通すことができた。

【西部地区】

- 3○指導案をデータで共有することで、より効率的な検討が可能になる。
- 4△資料配付を様々な場所へ送付しなければならないため大変だった。効率的な配布の方法があると助かる。

IV 研究大会当日の運営や内容について

【東部地区】

- 2△授業者がピンマイクを使用していたため声が聞きやすかったが、生徒の発言もマイクで拾うことができたらよかつた。
- ランチルームという広い場所に机は置かず椅子のみで、生徒は合唱の活動をしやすかったと思うパ

- ートに分かれたときの生徒の活動も見やすかった。
- 4 ○協議 1 では 先生方の授業構成や発問の仕方等を話合い、とても勉強になることがたくさんあった
活動を通してどのように成長できたらよいか、ゴールの姿をイメージさせることや、生徒が思いや
意図をもって取り組むための声掛け等、すぐに実践できそうなことが見付かり、有意義だった。
- 協議会で授業映像が提示され、効果的な I C T 活用が見られた。
- △本時の内容について、部会員の意見やアイディアを集めたり、意見交換したりする時間を増やせた
らよかったです。
- 【西部地区】
- 4 △時間が短いので、授業に関する協議 1だけもよかったです。また、協議 2 では、実践発表
のような形式でもよかったです。
- 協議 2 では、課題を前もって明示して割り当てまでしてあったので、しっかり議論することができ
充実したものであった。
- 協議 2 は、内容に対して時間が少し足りなかったように思う。

V 各研究部会独自の意見や要望

- △東部、西部の隔年でアドバイザーを呼んでいるが、学校行事も多いこの時期、東西交流に参加でき
ない会員も多い。アドバイザーの講義のみ、リモートで聞けるようになると、毎年講義を聞くこと
ができるよ。
- △技術・家庭科部会のように、今年は東部地区、来年は西部地区というふうに、全県一斉で実施する
ことも考えていいよ。 -

<美術部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【東部地区】

- 生徒のいろいろな表現欲求に対応できるように、多様な用具が準備されていたことは、有効であつ
たよ。
- 道具の使用例をモニターに映して見せるることは、生徒の目を惹き、自己の表現を考えるのに効果が
あつた。
- 座席を班にして活動することで、生徒同士で方法を相談し合いながら取り組みやすかった。
- 協議②の各地区代表者の発表は参考になった。
- 授業では電子黒板を活用し、粘土で質感を表現するための具体的な方法を分かりやすく提示して
いた。特に、野菜や果物の表面の凹凸や色の変化を観察する映像資料を用いながら、指先の動かし方
や道具の使い方を実演しており、生徒が実際の制作に生かしやすい工夫がなされていた。
- 今回の部会協議では、「共通事項を踏まえた授業の取り組み」をテーマとして、他都市の先生方による
実践事例が紹介された。それぞれの学校での教材の工夫や評価の視点、指導過程の展開等を共
有可能、今後の授業改善に向けて多くの示唆を得ることができた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 対象全体をとらえさせるための方法。
- 本時の学習課題に量感と質感を示したが、一つの内容に絞った方がよかったです。
- 材料となる彫塑用の粘土が少し扱いにくいものだった。生徒の実態に合わせたものを用意できるよ
うに、検討する必要があつた。
- 学習課題が「量感や質感が表れるように、肉付けしよう」と設定されていたが「肉付け」という
表現が制作工程の一部に焦点を当てているため、課題の中心をより明確にする意味で「量感を意識
して形を整えよう」といった表現にしてもよかったです。そうすることで、生徒
が立体的な形の捉え方により意識を向けやすくなり、作品全体の完成度向上にもつながると思われ
る。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

- 美術部会と特別支援部会の授業担当校、担当者が重なった。両方の所属だと、両方の授業にエネル
ギーをかけることが難しかつた。
- 資料の地図が分かりにくかつたことと国道の工事が重なったことが、会場校への到着遅れの原因と
なった。富山市から来られた先生方には、迷惑をかけてしまった（交差点等のポイントに人を配置
したほうがよかったですかも知れない）。
- 大変な中、準備ありがとうございました。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

- アドバイザー講義が毎年実施されるとよいと思う。
- 彫刻は分からないと取り上げることが少ない先生もいらっしゃると聞いています。めったにない彫
刻での指導にチャレンジされ、協議できたことに感謝です。
- いろいろな授業の切り口や生徒の捉え方を学べてよかったです。
- 授業前の説明等はなかったが、協議 1 での質問が多かったことを考えると事前にもう少し情報提供

があってもよかったですのではないか。例えば材料によってできる表現が異なってくる課題であったと思うので、協議会場に材料の見本を置いて材質を確認できるようにしておくとかの工夫をしてもよかったですのではないか。

V 各研究部会独自の意見や要望

- 各校に美術科は一人のことが多いので、協議会の設定を工夫して、授業の取組で工夫しているところなど、授業の写真等を紹介するなどして、話す機会があるとよい。

【西部地区】

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- ワークシートにレーダーチャートが取り入れてあった。自分の考えがどう分類されるのか、生徒が理解しやすくなっていた。それにより、新しい発想を練る際にも、同じような分野にするか別の物にするかを考えやすく、新しいアイデアが浮かびやすかったように思う。
- 発想という着眼点に重きを置いた授業が、新鮮でとても参考になりました。
- アドバイザー岡田先生の講義が大変勉強になった。特に発想の出し方を分類しておくことで、授業者から生徒へのアドバイスに生かしやすいと感じた。
- 各校一人のことが多い教科のため、このような協議や話し合いは大変有意義であった。講演会の中で最も寄りの先生方と生徒たちの発想の仕方を分類したり、意見交換したりしたことは学びが多くかった。
- 今回議論に上がった共通事項の指導の在り方に成果があったと感じる。
- 今回、ちょうど高岡市は学習専用端末の機器の入れ替えの時期と重なったので ICT の活用は少し消極的にならざるを得なかつたが、来年度に向けてまた ICT の効果的な活用も視野に研究を進めればいいと思う。
- 西部地区大会の発表では、高岡地区の鑑賞及び発想に取り組む授業を見させていただき、大変参考になった。授業研究では、1年生が「リンゴ」をテーマにした自由な発想スケッチを鑑賞し、その工夫について意見を述べ合った。絵本「リンゴかもしれない」を参考に、発想を洗練していく相互鑑賞の場面では、互いの発想を楽しみながら、認め合う場面が多くみられ美術科の特性がよく表れた取組となっていた。
この発想をもとに粘土で立体作品にする予定だが、デザインなどの平面作品のほうが適しているように感じた。なぜなら立体では、奥行きがあり角柱や円柱、円錐を接合や接着していくことになり、作業が困難になるからである。その対応策として、立体化の方法について生徒に話し合わせるのもよいと思われる。いつか立体になった作品を鑑賞する機会があれば参考にしたい。
岡田京子アドバイザーからは、発想の分類についてご教示いただき、これについても大変に参考になった。分類における具体的な数値の統計データ化といった高度な方式であったが、それは、発想の根拠を突き止めるきっかけにもなり、指導に活用することができると考えた。固定概念の打破の種類は多い。しかし、データベース化することで、より豊かな発想に向けた指導について示唆を得たように思う。
- 研究内容については、今年度は〔共通事項〕を踏まえた指導方法の研究ということで、美術の授業の基本となる授業だった。生徒たちのアイデアを生み出す過程を丁寧に授業から見ることができよかった。
- 授業力向上のための講義については「発想・構想」について研究授業とリンクした内容で日々の授業に直結しておりよかった。
- 研究授業の当日までに発想手段を複数体験して、表現の自由度の理解と完成形への見通しができるような主題へのアプローチは、制作過程での迷いや悩みを減らすことに成功していた。たくさんのアイデアを見て自分の参考にする展開は、1年生という発達段階に適応していて効果的だった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 板書の使い分けについての理解が広まってきていている。今回、電子画面のワークシートの提示について、最初のものがずっと投影されていた。ワークシートについては話題にしているものを適宜投影する方がよい。
- 研究対象となる授業を行うことができる教員の確保が課題ではないかと思う。
- 経験年数の少ない教員が授業をする際、指導案検討の前に少人数で検討する機会があるといいのではないか。
- 立体表現にとどまらず、平面表現への展開も想定する。生徒のイメージ案を ICT で表示し、他の生徒が閲覧しやすい環境に整える。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

- 2年連続で高岡市に引き受けさせていただいた。大変助かった。
- 指導案について、講師の方も高評価されていたが、素晴らしいと思った。しかし、本当にあのレベルまで必要なのか、再考する時期にきていないか。レベルが高い分だけ時間がかかる。ある部分は残し、ある部分は削っていく等と、考えてみてはどうかと思う。
- 前年度におおむね決定しているが、授業者発表者の教員の確保が課題。
- 会場校の先生方には大変お世話になった。会場校の教頭先生や教務の先生との事前打ち合わせを今後も大切に行い、研究大会を成功させたい。

- 今後も現行のように夏季休業中等を利用し、指導案検討会を複数回実施するのがよい。
- 大会資料はデータの送付し、各自印刷してもらった今後もこの方法がよいと思う。
- 高岡市の先生方と指導案検討を行い、たくさん勉強させていただきました。
- 西部と東部の分け方だけでなく、距離や管理などの問題はあるが県全体でグループ分けを行って、様々な交流や新たな学びを得たい。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

- 小学校での図工体験・既習内容から中学校美術へのつながりを意識させていただける内容だったので、大変参考になった。どのように講義内容を現場で有効に生かすかは、一人一人のアイデアや経験次第で広がりが期待できる。
- 今後も東西交互となっている授業力向上のためのアドバイザー講義を実施していただきたい可能であれば交互でなく毎年実施していただけたとありがたい。
- 授業者への集中協議だけでなく 協議での発言を受けて 発言者と他の参加者の意見交換も行って授業者の負担を減らしたい。また、授業者のサポートを指導主事や管理職等で積極的に行っていただきたい。
- 今までの頻度での授業研究が難しい場合、負担を減らした方法を模索するか、頻度を減らすなどの工夫が必要な時期に来ていると思う。
- 今年度は市中文祭が一週間早まったことで、市中文化祭下見(10/3)、県中文祭（10/5）研究大会(10/9)、市中文祭前日準備(10/10)、市中文祭(10/11)と、立て続けに出張することになりました。時期をずらして開催していただければ幸いである。
- 運営委員、記録などの選出、役割分担を決めるのが遅くなったことが反省点である。年度初めに分担を行っておくとスムーズである。
- △西部地区大会なので、遠距離の方もおられるので、開始時間を14時にしてよいと思う。

V 各研究部会独自の意見や要望

- 都市を超えてワークシートや指導案の共有等ができるべきだと思う。
- 市の研究大会は、高岡市と氷見市が共同で開催したこと、内容に富んだ意見交換を行うことができたのよかったです。今後も協力して研究を進めていけたらよいと感じる。
- △研究大会の隔年開催を検討していただけたとありがたい。今後も日々の執務に負担が大きくならず日々の執務に活かせる研究を進めていけたらよいと思う。
- 岡田アドバイザーのお話はとても聞きやすかった。スピード、抑揚、内容すべてが難解な語句が多く、腑に落ちる内容であった。できるかぎり今後もご指導を受けたいと願う。
- 人数が少ない地区だと授業者の負担が大きい（授業者を地区ごとに決めているが、大きなまとまりで授業者を決めてほしい）。
- △若手教員の登竜門的な位置づけの研究大会になっているが、ベテラン教員の円熟した授業の参観や教科横断的な研究があつてもよい。

<保健体育部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- Google フォーム、スライド等を用いて各グループの対話の様子や共有活動がリアルタイムで分かるようになっていることで、生徒は多様な価値観に気付き、考えを深めるために有効であった感じた。
- 活動の進捗がすぐに確認できることで、他者の意見を参考にしやすかった。
- I C T を利用することで、他の班の意見をリアルタイムで知ることができた。 I C T のよさは即時共有であり、効率的に 50 分授業の中に組み込まれていた。
- 意見を出しやすい生徒が、他者の意見を参考に考えることができた。
- 各班にテーマが与えられていたことにより話し合いが深まっていた。
- 発表する必要がなく、直ぐに各自の意見を共有できた。
- 班で話し合いながらテーマに向かって学んでいた。
- 企画を通して考えたことを他の班の意見も聞いて、最後に感想を文字で刻むときにも学びが深まっていた。

【富山市】

- 自由進度学習を取り入れた授業が提案され、既存の指導方法にこだわらず新たな視点で授業改善に向け協議や意見交換ができた（学び方を学ぶ、学び方を調整するなど）。

【高岡地区】

- 最終的に小学生と一緒に交流するというゴールの姿が明確に提示されていたので、学習課題をしっかりと自分ごととして捉えられていた。また、目的がはっきりとしているので、それに向かっての話し合いがきちんと行われていた。
- 場の設定や時間の管理等の準備がよくなされていた。子供たちはどれだけの時間で、どこで何をするのかということが明確になっていたため、スムーズに活動を行うことができていた。
- Google スプレッドシートと Google スライドを活用してグループの課題や成果を可視化することが

できていた。生徒たちが I C T を活用し主体的に活動していた様子が印象的であった。

- Google ドキュメントのコメント機能を利用しての相互評価を行っており 共同編集ができるため、他の人の多くの意見をすぐ共有することができていた。

【砺波地区】

- ステージのスクリーンに本時の流れが示されていたり、時間配分を言葉かけやタイマーを使って適切に示したりし、生徒自身が今することが分かるような支援が随所に行われていた。
- 生徒の明るさ、ひたむきさ、活発に活動する様子や常にポジティブな言葉かけをし合っているのがとても爽やかだった。また、教師の前向きな励ましや言葉掛けが生徒のやる気をさらに助長していた。
- 学校全体として取り組んでいる、牛乳パックのリサイクル等のごみ削減の取組とのつながりを意識させる教科横断的な指導が行われていた。
- 生徒会活動の実践的な取組と解決方法を探る保健学習から教育活動全体で保健教育が行われていた。
- 生徒の考えを学習者用端末に入力し、全員分の考えを自由に見られるようにすることで、多様な意見と自分の考えを比較することができており、I C T を効果的に活用していた。
- 単元の最後に、これまで学習した中で関心の深いテーマを選択し、自分の健康に結び付けて学習が進められるよう調べ学習を行う時間を設定することで、より深い学びに繋げられる単元構成となっていた。
- ワールドカフェ方式を用いて、多様な意見に触れる機会を作ることで、自身の考えと比較したり考えを深めたりすることに繋げていた。
- 授業を行うにあたり、廃棄物処理に関するアンケート調査を行い、生徒たちの廃棄物処理に関する意識・知識の現状把握を行い、生徒の実態をとらえて全体計画が考えられ、授業が仕組まれていた。
- タブレット端末を活用し、夏休み中に調査・資料作成の時間がとられていたことにより、根拠をもって解決方法を考えられるようになっていた。また、振り返りでは即時的な共有が行われ、友達の意見を参考に自分の振り返りを行っており、協働的な学びとより深い学びにつながっていた。
- 3～4人のグループに分けられ、発表時間や意見交換の時間を設定してあつたことで言語活動の充実が図られていた。また、途中でメンバーを入れ替えることで様々な意見や情報を知る機会が多くなるよう工夫されていた。
- 廃棄物処理について、何について調べるか様々なカテゴリーの中から自己決定し、興味・関心をもって調べ学習、資料作成に取り組めるように主体的な学習につながるようしかけられていた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- イベントを考える際に対象者（高齢者や幼児等）は決まっていたが、その対象者と何をするのかは今回決まっていなかった。そのため、何をするのかを決めるのに時間がかかり、ルールの工夫等を話し合う時間が短かったように感じた。テーマを示す際に「球技」や「ニュースポーツ」等ある程度やることを指定してもよいのかもしれない。
- テーマが大きすぎたため考える時間が短かったように思う。種目を限定するなど、もう少し生徒が考える範囲を狭めてもよいと思った。
- I C T があることで全体での意見の共有はしやすいが、班内での話合いの時に視線がタブレットにいたり、話合いをせずに各個人で入力していたりした。話合いを伴う活動の際に、全員がタブレットを使うことは一長一短だと感じた。
- I C T を活用することで効果的なことがたくさんあったが、実際の話合いが活発にならなかつたように感じた。
- 自分たちが入力することで手一杯で、活発な議論が生まれにくい状況があった。話し合う時間、入力する時間を分けたらよいかもしれない。
- テキストマイニングを利用して最後のまとめを視覚的に共有してもよかつた。
- 他者の意見を参考に自分の意見を深めている生徒が少なかった。
- 対話する場面が少なかったと感じたので、生徒同士が意見を共有する時間等の設定があるとよかったです。
- 個人の作業の時間と、全体の作業の時間の設定の仕方。
 - △「人々を結び付けるスポーツの価値」や「スポーツを楽しむ」とはどういうことか生徒が気付けるように問い合わせや動機付けを行ったり、「する・見る・支える・知る」の視点を抑えたりするとよかつた。
 - △「人々を結びつけるスポーツ」とはどういう意味なのか問い合わせ直すことで、今までの学びや経験につながり、価値に気付けたのではないか。
 - △多様な人々を結びつけるスポーツイベントにするための工夫点を話し合い、考えるという活動であった。自由に考えられる反面、テーマが漠然としすぎて逆にスポーツイベントや工夫点が思いつかないように感じた面もあった。特定のスポーツに絞って考えさせてみてもよいかもしくない感じた。

【富山市】

- 授業中に参観している教員の話し声が聞こえた。事前に参観時の注意事項として伝えていたが、授業や子供の様子についての意見交換を参観中に行った結果であった。効果的な対策のある部会があれば教えていただきたい（筆談、P C等を持ち込みチャットでやり取り等）。

【高岡地区】

- アドバイザーによる講義は大変勉強になった。一方で、当日の授業について協議する時間が短かつたと感じた。協議の時間をもう少し増やせたらよいのではないか。
- I C Tを活用し振り返りを行った後、共有できたことをどう生徒に還元していくかということを検討していく必要がある。意見を広げたり、深めたりする時間を確保する。
- I C Tの使用と運動量とのバランスを単元計画の中で考えていく必要がある。

【砺波地区】

- 通常の授業は2クラスを2名の教師で実施していた。今回はもともとの計画が授業者1人となっていたため、やむを得ず2クラスを1人での公開となった。あらかじめ学校の実態を確認し、2クラスを2名の教師での計画にしておけば通常の授業形態のまま実施できた。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

【砺波地区】

- △8月の打合せの際に指導案検討会を行うよう、授業者や研究部員に伝え、後はメールでのやりとりとすれば何度も集まらずに済む。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

【新川地区】

- 部会協議40分、アドバイザーの講義70分の時間配分だった。部会協議の時間がもう少し増やせたらよいのではないかと感じた。

【富山市】

- 今年度はアドバイザーによる講義がなかったため、協議の時間を十分に取ることができた。アドバイザーによる講義について、時期を各地区・各部会の実情に合わせて変更できるようになるとありがたい（例えば、6月に実施等）。

【砺波地区】

- 協議①は授業の視点に関すること、協議②は若手教員の悩みや評価方法について協議した。協議①では、グループごとに発表し意見交換をしたが、協議②では、時間の都合上、グループ発表を行わなかつた 砺波地区的部員が集まる貴重な機会なので 発表をした方が研究成果が上がると考える。
- 今年度はすべての研究授業が保健分野で行われた。体育分野・保健分野でバランスよく提案授業が行えるよう内容を検討していくよ。
- 今年度は部会協議②で紙面発表を行った。部会協議①での提案授業に関する協議、研究主題に関する協議に時間をもっととってもよかったですと感じた。次年度の部会協議運営へ生かしたい。

V 各研究部会独自の意見や要望

【新川地区】

- I C Tの活用について グラウンドや武道場にはW i F iの環境が整備されていない学校が多く、動画撮影以外での活用が難しい状態である。今後「I C Tの活用」に向けてW i F i環境がなくとも、どのように活用していくべきか先進事例を知りたい。

<技術・家庭科（技術）部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果があったこと

- 初めての県下一斎の研究授業が実施され、東西の交流促進に大きく寄与した。
- 各地区の研究内容や教材等を東西で共有することにより、県全体として技術科の発展に貢献したい。
- 今回の研究授業の題材は「稲刈りの自動化」であり、多くの生徒が身近な課題として捉え、主体的かつ熱心に問題解決に取り組む姿が見られた。
- 生徒がデバッグを繰り返しながら何度も挑戦する様子が見られ、意欲を高めるための効果的な手立てとなつた。
- 県下の技術科教員が初めて一堂に会しての研究会となり、これまで少人数で行ってきた研究大会がより実りあるものとなつたことは大変喜ばしい。
- 地域に即した課題設定により、生徒が主体的に取り組み、活発な授業展開がなされていた。
- 協議会では 東西の交流を図るため 東部2名・西部2名の計4名でグループを構成したこと多面的・多角的な協議が深まつた。
- 東西合同としたことにより、4地区（新川・富山・高岡・砺波）が4年に1回の研究授業を担当する形となり、より練られた授業提案が可能となつた。
- 稲に見立てたワッシャーの使用は、題材に即した優れたアイデアであった。
- 生徒が試行錯誤を重ね、粘り強く課題に取り組む姿が印象的であった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 東海北陸大会に向け、各地区で担当領域を明確にし、計画的に研究を進める必要がある。
- 学習指導要領の改訂に伴い、技術分野では今後さらに情報領域の比重が高まると考えられる。その中で、3年生の隔週授業では情報活用能力の十分な育成が難しい可能性がある。
- 今回、東西合同でのグループワークは実施されたが、各グループの発表で終わったため、全体を総括・整理する時間や担当があるとより効果的であった。
- 東西合同開催に伴い、研究授業だけでなく、研究発表の担当割り当てについても検討する必要がある。
- 題材・教材・指導案・ワークシート等の資料（データ）の共有方法について検討したい。
- 走行距離や角度等の微調整が必要であったほか、囲いが狭く SmartCutebit が曲がる際に接触しているため、改善の工夫が求められる。
- 授業担当地区・学校に任せきりとなる傾向があるため、全体で支援・協力できる体制づくりを検討したい。

III 大会の諸準備、諸会合について

- 県下一斉での研究大会であるため、会場校はできるだけ参加しやすい地域が望ましいが、授業担当者との兼ね合いから調整が必要な場合もある。

IV 研究大会当日の運営や内容について

- 授業力向上アドバイザーによる講義が隔年実施のため、東西での実施機会に偏りが生じる。

V 各研究部会独自の意見や要望

- △ 全県一斉での開催が、今後の活発な研究推進の契機となることを期待する。
- △ 県下一斉の研究授業実施に伴い、遠方から参加する教員への配慮として、終了時間をもう少し早めることを検討したい。--1

<技術・家庭（家庭）部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【研究授業】

- 家庭科の学習に自由進度学習を取り入れた提案授業にもなっており、大変すばらしかった。評価や指導ポイントには少し難しさを感じられるが、実習が個々の学びにつながる授業になっていた。
- 生徒がそれぞれ違うものを製作すると指導や管理が大変だが、スプレッドシートを効果的に活用した進度表、見本、アイロンの注意書き等の個に応じた支援や環境整備が大変参考になった。（同意見多数）
- 自分で方法を選択しながらの実習を初めて見た。生徒が主体的に実習に取り組む素敵な姿が見られた。また、高岡市は今からクロムブックを使い始めるので、スプレッドシートの使い方等、大変参考になった。
- ポケット付けや、三つ折り縫いなどの見本や、先輩の作品を見本として置くことで、生徒が困ったときに解決する手立てになっておりよかったです。
- 揭示物や準備が細かい箇所までされていて、生徒にとって学びやすい環境になっていた。自由進度学習の進め方の参考となった。
- 「動画」「お試しコーナー」「先生方が作られた見本例」「教え合い」等を使って、生徒が自由に見本を活用したり、友達に教えてもらったりできる環境が整っていた。生徒が自分に合った方法で主体的に課題解決していくために有効にはたらいた（同意見多数）。
- 先生のこれまでの授業の積み重ねがあり、どの生徒も自分のやるべきことを分かつており、自発的に作業を進めていた（できればその過程の授業も見たかった）。
- 大型モニターで進度や助けてほしいことが視覚的に分かりやすくなっていてよかったです。
- 得意な生徒に達人の名札を渡すことで、もらった生徒も自信をもてるし、まわりの生徒も聞きやすい状態になっていたのでよかったです。（同意見あり）生徒同士で主体的に活動していた。また、先生が答えを教えるのではなく、生徒に考える時間を与えていたことがよかったです。
- 生徒たちが自由に見本を活用したり、友達に教えてもらったりできる環境を整えることで、製作活動に主体的に取り組む様子がみられた。十分すぎる授業準備が奏功することは、今さら言うまでもないが、再確認できた。
- 生徒が主体的・対話的に活動し課題解決していく環境が整っていた。（同意見多数）生徒が自身で学び方を選択し、解決していく姿が見られたことが研究授業としてふさわしかったと感じた。
- 生徒たちは、自分が作りたいバッグの用途やデザインを考え、学びながら課題解決に向けて活動していた（同意見多数）自分が作りたいものを選択して製作できるのはよいと感じた。
- 本時は先生を頼ろうとするよりも、自分たちで課題解決しようとする生徒の姿が多く見られた。本時だけでなく、不織布を使った課題設定、3つの視点を意識させたことの効果が大きいと感じた。
- 3つの視点で自分が作りたいバッグを明確にしていた。どんなバッグを作りたいかという願いを常に意識していることができているため、生徒の主体的な学びにつながっていた。
- 富山市の家庭科部会の結集力が伝わり、本時だけでなく事前準備についても勉強になった。

○2年間にわたる準備、計画、そして授業、本当にありがとうございました。自由進度学習の在り方について、貴重な提案をいただいたこと感謝いたします。

【協議会のもち方】

○県全体で協議会を行ったことにより、初めてお会いする先生方の意見を聞くことができ、経験年数を問わず視野が広がり有意義であった。(同意見多数)

○富山市の幹事がグループの進行役となり討議するという協議会の形だった。西部地区ではあまり見ない協議会の形で非常に新鮮だった。全員で一度に話し合うよりも話題が豊富になったと感じた。

○話し合う視点が絞られていたことや、グループに分かれて行われたことにより、積極的に活発な意見交換となった。

【授業力向上のための講義】

○内容が理解しやすかった。とてもためになった。本当に勉強になった。自分の授業を見直すきっかけとなった根拠とその具体を明確に教えていただきより授業の工夫と改善に図りたいと思った。(同意見多数)

○アドバイザーの話をもっと聞きたかったです。レジュメにあった蒸しパンの授業について詳しく聞きたかったです。

○生徒に身に付けさせなければならない軸を教わった。

○教師は生徒の考える力を引き出すようするすることが大切であるということが心に残った。

【研究方法】

○富山市の部員全員で授業に向けた準備を行うことができたため、授業のイメージをもって当日を迎えることができた。また、県内で1つの研究大会になったことで、充実した研修になった。

○家庭科の授業における「自由進度学習」の在り方(進め方、準備、おさえる項目、指導方法すべて含めて)を富山県の家庭科教員全員で検討するための提案ができたことが効果的だった。

○富山市の幹事が中心となって、昨年度から時間をかけて練り上げてきたことが、富山市からのよい提案授業となった。特に、授業者の先生の大変意欲的な取組に周りが刺激を受けたのは間違いないと思う。ありがとうございました。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

・研究授業

△一人一人が課題に向き合うためには、他者からのアドバイスも時には必要となるが、今回はそれを主にグループ内で行っていた。自分の製作途中の写真を授業の終わりにアップして、全体で見る場面もあれば、自分の製作に対して全体からもアドバイスをもらえるかもしれない。

△見本や先輩の作品を自ら見に行く生徒もいたが、多くは教員に促されてから見に行っていた。見本スペースにどのような見本があるか、何に困ったら見本を見に行けばよいかの説明があれば、生徒も自発的に行くのではないかと感じた。

△押さえるべき事項やその時間配分を把握するための実態調査(体験)が必要ではないか。

●生徒の実態把握の仕方とつまずきに対する手立てについてもう少し工夫ができたと感じる。生徒が活動を始めていたとしても、多くの生徒がつまずいている実態を捉えて、全体をとめて指導する場面があってもよかつた。(同意見あり)

●学習課題設定の手立てにさらなる工夫が必要と感じた。

●「まっすぐ縫うにはどのようにしたらよいか」等、見た目や丈夫さにつながる課題を設定させることができたらよいと思う。

●タブレット、ファイル、裁縫セットと物が多く、作業する場がせまくなっていたので、安全上、使わない時はしまうべきところにおくようにするとよいと思った。

●課題解決のための手段として、生徒は見本や標本を活用することが少なかったように思う。展示の仕方に工夫が必要ではないか。

●全体指導と個人指導の使い分けを教師が判断していくこと。

●自分で進めていく中でも、しつけやまち針の打ち方、ミシンで縫うときの姿勢や動作が作業の正確さや能率に関係することを伝えるなど、それら正しい技能を全体に定着するための工夫・改善があればよい。

●基礎・基本を確実に定着させる工夫が必要だと改めて実感した。例えば、ミシンやアイロンの安全な取り扱い方についての指導は、小学校でもなされていた部分はあるが、意欲はあっても正しい取り扱えないことが障壁とならないように工夫しなければならないと感じた。(同意見あり)

●生徒の実態に合わせて、全体のつまずきなのか個人のつまずきなのかを教師が判断し、授業展開していく難しさを感じた。また失敗から気付くことが多いが、正しい技能を身に付けずに授業が進んでいく、結果、技能が身に付いていない現実をどうしていいか課題として研究していくみたい。

●完成後に、作ってよかった、大事に使いたいと思えるような「作品愛」が生徒の心に残る作品づくりが目指せたらいいなと思う。

・生徒の主体的な学びを支える教師の指導、支援のあり方
特記事項なし

・研究の視点

●本質でなく方法論になりがち。

・協議会のもちかた

△付箋に意見を書きながら授業を見ると、もっと意見を言いやすくなったのではないか。

- グループの人数と時間配分に検討が必要に思う。（同意見多数）しかし、授業者の先生がまわられていたので、これ以上グループの数が増えても大変だったと思う。
- グループでの協議の時間の長さに物足りなさを感じた。グループで話合った意見を全体で共有する場があるとよかったです。（同意見多数）
- 日頃から他者の実践を知る機会が乏しいので 実践研究を聞かせていただく場があるとありがたい。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

1 会場都市、会場校の決定

- 東西の家庭科教員が共に研修ができ、よい機会であった。（同意見多数）
- 秋の研究大会が東西合同での開催になったことは画期的である。ここにこぎつけるまで大変だったことだと思います。ありがとうございました。
- 県で1部会となつたので 事前の指導案検討や仕事の分担も全員で行えるようになればよいと思う。

2 地区研究会

- 東西合同になったとはいえ、研究大会を引き受ける地区ブロックの人数が変わったわけではない。つまり、各ブロックの家庭科教員の人数に注目すると、2～3人というブロックがある。そのような人数だけで研究を進め大会を実施するのは負担が大き過ぎる。せめて地区研究会については、研究大会開催校の地区に全郡市部長が参集し、研究大会当日の運営についてと、研究内容や大会当日の授業について共通理解することができたらよいのではないか。大会当日の授業開始前にオリエンテーションがないので、この郡市部長間での共通理解の場は必要である（今年は東部の郡市部長全員が地区研究会で参集できたことはありがたかった）。

3 資料の編集及び事前研修会

- 東西合同になり、準備や運営は授業を実施する地区のみで行うのがよいのか、全体で行うのがよいのか検討する必要があると感じた。
- 研究会前に事前打合せとして事務局に出張可能にしてもらえたことがありがたかった。

4 資料の製本や配布等

- コロナ禍以降資料を製本せずデータで配布するようになったが、全地区開催になったことで、よりその便利さを感じた。
- 市教委には資料は郵送ではなく、文書交換だとあります。資料の送付先をはっきりさせるとよいと思う（？：郡市部長→各学校代表 ⇒ ○：郡市部長→各学校教科主任）

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

- 今回は富山市での開催だったが、より遠い地区での開催になった場合、勤務校をより早く出てくる必要がある。技術部会（西部地区大会）は、協議会を1つにし、集合時間を14時としたと聞いた。14時であれば、4限終了後に出発しても間に合うとは思うが、その分研究授業学級の生徒を長く待たせることになること、アドバイザー事業があったり、他教科の研究大会が同じ会場で開催したりすると、時間をずらすことが難しいと考えられる。
- 来年度の大会では、IIIの2・3、IVの1を呉西地区全体で進めることができるように体制を整えてもらいたい。

2 研究授業

- （中教研全体の話として）数年前からオリエンテーションがないが、授業を参観する前に、授業の視点を共通理解する時間があつてもよいように思った。
- 参加していた教員の数が多く、授業を思うようにみることができなかつたため、会場を広くするなどの工夫が必要であると感じた。

3 研究発表

- 現時点のように、アドバイザー事業が隔年開催であれば、西部地区で大会が開催される際はアドバイザー事業がないと考えられるため、その場合の「協議会2」の内容については、東部地区の先生とも相談できる機会があればよい。（同意見あり）

4 研究協議

- 当日、その場でアンケートに回答できれば、記憶が薄れないし、回答率も高くなるのではないかと思いました。フォームの設定で、どんな端末からも回答できるように設定できると思います（保護者にアンケートに回答してもらうのと同じ設定です）。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

- △ 授業力向上のためのアドバイザー講義ではなくても、家庭分野に関する講義を聞く機会は大変貴重があるので、毎年あるとよい。

V 各研究部会独自の意見や要望

- 初めての東西合同の研究大会だったが、今後どの学習内容（A～C）やどういう方法で研究をすすめるかを整理していく必要がある。（以前は西・東で分野を分けていたため）
- △評価についての指導助言をいただける機会があるとありがたい。
- 家庭科教員は学校で一人しかおらず、また高岡市は若手教員が多いため、このような研修会や情報交換の機会があることはありがたい。
- 今後も、トライ授業を基に研究授業について練り上げていく形は継承していってほしい。なぜなら、研究授業が授業者だけのものではなく、部会全体のものとしてみんなで考えていく方法の一つだと考えるからである。
- 普段の授業で使える教材やワークシート等を共有できる場があると、授業に生かしやすい。
- どんどん部員数が減っているので、地区の部員と協力しながら今後も研修を進めていきたい。

<英語部会>

研究大会の成果について

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的に成果があったこと

<研究授業>

- AIを活用した個別の発話練習を帶学習として取り組んでいた。AIが学習者一人一人に応じたフィードバックを提供しており、個別最適化された学びの実現に寄与していた。現段階においてAIにまだ欠点はあるので、今ある機能で効果的に活用する方法を改善する必要がある。
- 「生徒の考えや気持ちを台湾の生徒に伝える」「ALTが2人」「ALTの家族や友人からのビデオレター」など学習資源を積極的に活用することが目的意識の高まりにつながった。
- 目的、場面、状況が明確で、生徒の興味関心が引きやすく、積極的に取り組んでいた。
- AIの使用が効果的に使われていた。使用時のルールが明確で徹底されていた。
- どのペアも躊躇することなく英語でのやりとりを行い、日頃の積み重ねの成果を感じた。
- 友達との対話やアドバイスから言いたいことが明確になり、発表内容を再構築していた。
- 言語活動の中間評価、指導の仕方（生徒のやりとりから出た文法上の間違いをホワイトボードに示していく等）が効果的で、生徒自身が修正しながらコミュニケーションを図っていた。
- 振り返りでスプレッドシートに入力する活動を通して、生徒同士が即時に互いの考えを共有することで共感したり、協働的な学びへつなげたりすることができた。

<部会別協議会①>

- 小グループで研究授業について協議した。視点を2つに絞ったため、短時間ながら協議が深まった。口頭での共有はせず、グループごとの記録を掲示し、閲覧したり、撮影して共有した。

<部会別協議会②・研究発表・授業力向上アドバイザー講演>

- 日頃の実践例をもとに授業の進め方や活動の報告があった。各校の取組を共有できた。
- 教科書にあるRetellの進め方について意見交換を行った。各校で行っている取組を聞いて、授業に生かせるものがたくさんあった。
- 帯学習や音読活動の工夫等、具体的な指導方法や内容について多くの学びがあった。

<研究方法>

- 運営委員で何度も指導案を吟味できることはよかったです。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 台湾の生徒がどのようなことを知りたいのか、何に关心をもっているのかを事前に明らかにすることで、内容が絞られ、より効果的な交流活動になる。
- 教師の英語使用量を増やしたり、ALTを効果的に活用したりすることで意欲付けにつなげたい。
- 生徒が話したくなる主体的な言語活動にするには、どのような場面設定を行うか工夫が必要だ。
- 即興的な活動を行う前のメモの在り方はどうあるべきか。
- 「言い方がわからなかった表現」を共有したいが、あまり出なかつた。どうやって生徒たちの困り感を吸い上げ、共有すればよいのか。また、共有すべき点を見極める必要がある。
- 繰り返しペアを変えて対話する際に、回を重ねるごとに目標を高めていくとよい。
- もっと教科書を使用した授業について研究できればよい。
- やりとりについて、聞く側が視点をもつなど、会話を継続させるための手立てがあるとよい。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

1 会場都市、会場校の決定

- 富山市は会員数が100名近いので、授業者は毎年2～3人は必要。できれば3人に授業をしていただき、参観者を分散させたい。
- 高岡市は会場校決定に関しては、市中学校長会も間に入って調整した。

2 地区研究会

△地区主任をしたことがある先生から当日の流れや司会原稿等のデータをもらい準備を進めた。流れや司会原稿の大枠も HP で共有してほしい。初めて地区主任をする人でもスムーズに運営できるよう ToDo リストのようなものがあればよい。毎年大きく変わることがないなら、県で統一されたものがあってもよいと思う。

●会場校の教頭が特活の部会責任者であり、地区研究会当日は事前打ち合わせができなかった。代理の方（教務主任）でも必ず参加できるように連絡の徹底がなされていてほしい。

3 資料の編集及び事前研修会

●指導案作成に向けて 2 回参集し、その後クラスマウムでやり取りして完成させた。参集した方が検討しやすい。必要に応じて Meet を活用するとよかつたかもしれない。

4 資料の製本や配布

△すべてメール送付がありがたい。

○参集の負担を減らすため、資料の製本（紙冊子の作成）は、市部長の勤務校の教員で行った。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

2 研究授業

●参観者が多く、指導助言者の立ち位置が限定されてしまった。

●会員数に合わせて、参観者を分散するために授業者の数を考えたらよい。

3 研究発表

●研究発表が久しぶりで、担当校が曖昧だった。

4 研究協議

●記録用紙の様式が手書きを前提とした様式であり、使いにくい。

●協議会の時間が短い。スプレッドシートの活用等あればよいのでは。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

○大変学びの多い講義を聞くことができた。これからも継続してほしい。

V 各研究部会独自の意見や要望

○黒部市で行っている英会話科の授業と提携し、より深い学びにつながるようさらに充実した言語活動を目指していきたい。

○市が提携している海外の都市との交流を生かした活動を行っていきたい。

○今回挑戦した AI を、次年度も取り上げればよいのか、または違った視点で授業を提案するのがよいのか教えてほしい。（来年度研究発表予定の市部長）

<道徳部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【東部地区】

○コの字型で互いの顔が見えるようにしたり 4 人程度のグループで話しやすい雰囲気を作ったりする工夫が効果的であった。

○生徒に自分の考えを書かせる時間が十分に確保されていたので、ペアや周りの人と自由に意見を交換する時間では積極的に意見を交わす様子がみられた。

○大型ディスプレイでアンケート結果を提示することは、ねらいとなる価値を押さえるために効果的であった。

○自由に立ち歩いて、意見を聞きに回る手法が、個人の考えを深めるために有効であった。

○事前資料に、研究協議のやり方が細かく書かれていてよかつた。授業においての視点も分かりやすく、研究協議もスムーズであった。

【西部地区】

○授業会場と協議会場①と同じにし、板書を確認しながら協議できるようにした。

○考え、議論する道徳となるように、教師の問い合わせしが効果的に行われていた。

○生徒のアンケート結果を導入に活用したことで、自分事として考えることができた。

○アドバイザーの柳沼先生の講演では、授業のどの場面で「考え、議論する」ことが大切なのか、研究授業とからめて具体的にご教授いただき、研究主題に対する学びが深まった。

○参観する教員数が多いので、3 学年に分けての参観は混雑を避けることにつながっていた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【東部地区】

●登場人物の共通の思いに気付くような手立てがあれば主題についてもっと考ることができますのではないか。

●終末に、生徒がノートに書いた意見や考えを共有する時間があったら効果的ではないか。

●グループでは考えが深まる様子がみられたが、それを全体で十分に共有できれば、よりよい授業になったのではないか。

●意見交換の場面では、生徒によっては関わる人が限定されていたので、さらにいろいろな人と交流できるような工夫があってもよかつた。

- 研究授業について話し合う時間が短く感じた。協議の時間にもう少しゆとりをもってほしい。
- 生徒の意見やその交流がもっと見られたらよいと思った。教師と生徒の対話だけでなく、生徒と生徒の対話が生まれるような発問や展開の工夫が「考え、議論する」道徳につながると感じた。

【西部地区】

- 部会協議①の時間において、グループ内協議の時間が 10 分程度で、大変短いので、協議する点について、決めておいたほうがよいと思った。
- 教師と生徒の一対一のやり取りに終始しており、生徒の考えが広がったり、深めたりする様子があまりみられなかった。
- 部会協議①では、生徒の考えを深めるために有効な手立てについて話し合った。限られた協議時間をより有効に使うため、もっとテーマを絞って協議する必要があったと感じた。
- 座席をコの字型にするなど、県の研究構想の内容がもう少し反映されていてもよいと感じた。
- △部会協議①は時間については、事務局から基準として示されているし、その後のアドバイザー講話の時間確保もあるので、部会では改善を図りにくいので、次年度は事務局よりよい時間設定を提案してほしい。
- △教室の大きさに対して参観者の数が多すぎるので、広い部屋を利用して授業したほうがよい。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

【東部地区】

- (1会場都市、会場校の決定 2地区研究会 3資料の編集及び事前研修会 4資料の製本や配布)
- 事前に参加する教員の人数の確認があったため、学校内での出張等の配慮に支障が出なかつた点がよかつた。
- 指導案作成のための日程がタイトであった。指導主事から助言をいただける時間や中教研の部員で指導案を検討する時間等をしっかりと取るためにも、指導案作成の順序について思い見直しが必要であると感じた。
- △資料の送付はデータのみにできないか検討していただきたい。地教委や教育センターに送付するためや予備の資料のために製本印刷に時間がかかるので、ペーパーレス化を強く要望する。
- 教科書の採択が地区によって異なるために教科書のコピーの準備が大変であった。

【西部地区】

- △令和8年度から、オンラインでの開催にしてはどうでしょうか。
- △事務局で集約されているのであれば、事務局から全校送付（配布）していただくことはできないか。

IV 研究大会当日の運営や内容について

- (1運営分担や日程 2研究授業 3研究発表 4研究協議 5授業力向上のためのアドバイザー講義)
- 【東部地区】

- 遠方から来る教員もいるため、タイムマネジメントが徹底されておりよかつた。

【西部地区】

- 各学年で授業を公開していただいたので、各自で参加する部会を選択できたのがよかつた。
- 授業会場と協議会場が同じであったため、協議会では、板書を直接確認しながら、より具体的で活発な話合いができた。
- △指導助言の時間が 10 分というのは短く感じた。市中教研研究大会でも 20 分の指導助言なので、20 分は確保すべきだと思う。
- 時間設定は、事務局から示された基準の設定に従ったが、部会協議の時間はやや短く、公開授業後の休憩時間も短く、あわただしかつた。

V 各研究部会独自の意見や要望

【東部地区】

- 事前に研究大会の教材を分析する研修を行ってから、研究大会に参加することで研修の視点に沿った協議につながった。

【西部地区】

- 普段見ることができない自分が担当する学年の道徳を見ることができたので、今後の授業に生かしたい。

<特別活動部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【東部地区】

- Yチャートを活用して、多角的な視点から校則について考えることができた。
- 富山市の6月部会での思考ツールの講演を聞いた後、実際に特活での実践が見られたことがよかつた。講演を聞いて終わりではなく、6月と10月部会につながりがあるので、より学びが深まつた。
- 校則の見直しをテーマとして、学校全体で取り組んだことで、生徒が自分事として学習に向き合う

- とともに、学年による反応の違いや今後の実践の在り方を共通のテーマとして協議することができた。
- 思考ツール（Yチャートの活用）について、研修や授業を通して、有用性が確認できた。
 - 校則について、生徒たち自身が学校をつくっていくという意識が感じられた。今後の生徒指導においても大変参考になる授業だった。
 - 生徒が安心して発言できる雰囲気があった。
 - 発言している生徒の話を聞いている姿勢がよかったです。
 - リーダーたちが生徒の意見をしっかり聞く姿勢があった。
 - 構造的な板書、ICTを活用した視覚的な支援（Yチャート）を用いることにより、子供たちの意見が整理され、より深く考えることに活用できていたと感じる。

[西部地区]

- 事前の調べ活動やアンケートを活用することで、話合いの活性化、考えの深まりにつながっていた。
- キャリアパスポートを活用することで、これまでの活動を振り返り、将来に向けて意識を高めることができていた。
- 第2学年では、「14歳の挑戦」での経験に基づいた課題を設定することで、生徒にとって必要感のあるテーマとなっていた。
- 話合い活動の様子から学級の良好な人間関係が伺え、担任の先生の日頃の学級経営が生きていると感じた。
- インタビューやアンケート結果を活用することで、「つかむ」の段階で生徒が必要感をもって自分の課題と向き合っていた。
- 授業計画に合わせ、実践と振り返りができるようなワークシートが工夫されていた。
- 1年生では「将来の自分の姿をイメージして、具体的な行動目標を設定する」授業だった。キャリアパスポートやインタビュー活動を活用し、学習と将来のつながりを意識させる工夫が効果的だった。
- 2年生では「14歳の挑戦」を振り返り、将来に向けて必要な力を考える授業だった。アンケート結果を活用した話合い活動により、自己の課題認識と意思決定が促された。
- ワークシートやホワイトボードを活用し、意見の可視化と共有が促進された。
- 「14歳の挑戦」という体験をもとに課題を設定していく、生徒にとって捉えやすい課題だった。
- 事後アンケートを効果的に提示し、本時のゴールを明確に示したことで生徒が自分自身に落とし込んで考えることができた。
- 学習活動の中で意図的なグルーピングを行い、多面的・多角的な視点から考察している様子がみられた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[東部地区]

- 本時の学習課題が可視化されているとよかったです。
- Yチャートが黒板に貼ってあったので、後ろの生徒は見えなかつたので、タブレットで配布すればよかったです。
- 導入で本時の「議題」「提案理由」「話し合いのゴール」の共通理解を図れるよう、事前の議長への支援を丁寧に行うべきだった。特に、本時が中1では初めての学級会とのことだったので、授業中の教師の介入を少なくできるよう、より丁寧に事前の支援をするべきだった。
- 各案に対して、比較検討する際の視点（より多くの人にとって恩恵を受けられる・みんなが新たなルールを守りやすい・中学校のブランド力を高めたり、独自性を示すことができる・中学生らしい）を提示、整理してあげる必要がある。ここは教師が介入してよいポイントであったと思う。一度立ち止まることができれば、あとは生徒たちが自ら考えることができたと思う。
- 終末での教師の話を、事前にもっと練っておく必要があった。全校の取り組みであるのであれば、もっと特活部会で終末の話の視点や何を価値付けさせるべきかを共通理解しておくべきだった。
- 生徒の主体性を重視した、生徒視点の話合いに多くの時間が費やされていたが、思考ツールやICTを活用しながら、異なる視点や少數意見を生かすことで、さらに活発な意見交換が期待できる。
- 研究主題が合意形成だったため、思考ツールが合意形成や意思決定につながるかどうかの検証や研修が必要だと感じた。
- 生徒同士の対話を促すためのグループワークの仕方や生徒の考えをもれなくひろうことができるワークシート等の工夫が必要だと感じた。
- 話合いの焦点をどのように設定するか検討が必要だと思う。
- どの場面でグループワークやペアでの意見交換をするか適切な話合いの形態を検討すればよい。
- ICTの活用ありきにあらないよう、どのような目的で何をどう活用するのかを検討していく必要がある。

[西部地区]

- 生徒にとって必要感のある課題の設定。特に第1学年では「将来をイメージした具体的な行動目標」というテーマが生徒にとって漠然としたものになったように思われる。
- 話合いの内容を基に、生徒一人一人がより考えを深めるための工夫。そのためには、「なぜそう考

えたのか」という理由を深掘りする必要があると考えられる。

- 今後、自分で意思決定した内容について継続して意識し、取り組むことができるようになるための手立ての工夫が必要である。
- 本時の課題に対するゴール（生徒がどのような考え方をもてばよいか）を意識することや、生徒の思考の流れを整理することが必要である。
- 生徒同士の話合い（「さぐる」の場面）の工夫。自分の考えの交換だけでなく、「なぜそう考えるのか」を互いに聞き合えるような話合いにするための工夫があればよかった。
- △生徒の人間関係や、一人一人の課題を適切に見取り、適切に机間指導や助言すればよい。
- 「次につなげよう」とする意欲を高めるための仕掛けと、本時で決めた課題への定期的な振り返りの工夫が必要である。
- 発言が苦手な生徒への支援として、キーワードやモデルの提示等の工夫があったが、ICTを活用した支援方法の検討が必要だと考える。
- 「14歳の挑戦」で得た学びが学校生活に十分に還元されていない生徒もあり、継続的な振り返りの場の充実が求められる。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

1 会場都市、会場校の決定

[東部地区] [西部地区]

- ・開催都市については、申し送りにつき、決定。会場校は、前年度に決定済み。

2 地区研究会

[東部地区] [西部地区]

- 会場への案内図や駐車場の図示など、分かりやすい案内で会場へスムーズに足を運ぶことができた。

3 資料の編集及び事前研修会

[東部地区]

- 8月部会で指導案を検討し、当月末に再度、幹事と授業者が検討したが、時期も近く似たような話題が検討されていたこともあったため、スリム化できるのではないか。

[西部地区]

- 指導案検討を計画的に行えればよかったかと思う。8月の地区研究会でたたき台の検討を行うよりも、事前に市で検討を行い、ある程度方向性を決めた状態で話し合う状態にすべきであった。

4 資料の製本や配布 等

[東部地区]

- 資料の製本等、部長の先生方でなくともできることくらいは、やれたらよかった。

[西部地区]

- 砺波地区の先生方を中心に、諸準備等を進めていただいた。担当の地区的負担が大きい。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

[東部地区]

- 授業参観者数のアンバランスさが気になった。時期的にどうしても1、2年生担当の先生方が参加されることが多いので、担当学年で振り分けるのではなく、機械的に振り当てるより、各都市でバランスよく配分してもらうなど、工夫が必要だと思います。
- 市副部長兼授業者となつたため、運営面で支障があった。

[西部地区]

- 準備は概ね円滑に進められた。資料の共有や事前の打ち合わせの回数が限られていたため、運営委員間の情報共有の強化が望まれる。

2 研究授業

[東部地区]

- 最近は各校代表者による参観であるが、多くの教員で実際に授業参観できる方がよいと感じた。
- 授業者の先生方は、忙しい中にも関わらず、生徒のことをよく考え授業をしてくださった。生徒も、たくさん参観する教員がいながら、活発に意見を交わす様子がよかったです。だからこそ、これだけ活発な生徒の様子を、もう少し近くで見ることができたら有難かった。どうしても教室が狭く、中で見られない参加者がいたし、班の話合いの際に、机間巡回することが難しかった。会場校の都合や生徒の慣れもあるため、可能な限り、広めの特別教室等を使っていただけすると、より見やすかったです。

3 研究発表

[東部地区] [西部地区]

- ・なし

4 研究協議

[東部地区]

- 協議のグループの人数がうまく構成されていなかった。
- オンラインを繋いでいる話では、複数の指導主事の話を聴くことができる一方で、それぞれの指摘が

浅くなってしまい、参観者・授業者ともに消化不良で終えてしまったと思う。特別活動の教材研究に割ける時間は各自少なくなっている中で、教師による深い学びがなければ、県の特別活動のレベル自体が低下する一方であると思う。各校に持ち帰り、全県的に特別活動を深めることができないのであれば協議を終えたときに、各自が何かしらの答えや納得がなければ、自校に何も落とすことができない。

- 学年で分かれての協議だったが、3学年とも同じ指導案での授業だったため、その後、各協議会での内容をオンラインで情報共有できることにより協議も深まった。協議会では、所属する学年以外の協議内容や指導助言についても、オンラインで視聴することができたが、事前に全学年が同一テーマで学習に取り組むことを確実に周知することで、より他学年部会との比較・検討ができたのではないかと考える。

- 会場校の教員も参加したため、教室以外（音楽室、美術室、体育館等）の広い場所で授業や協議会を行えばよかったです。

[西部地区]

- グループ協議したことを全体で共有する場面があればよかったです。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

[西部地区]

- アドバイザー講義が入ると、どうしても協議会の時間が短くなってしまう。各校での取組等参加者の情報交換が取れなかった。

- アドバイザーによる講義が、実践的で有益だった。

V 各研究部会独自の意見や要望

[東部地区] [西部地区]

- 今回は合意形成であったが、何をもって合意形成なのかを、確認してもよいと感じた。「全員が納得することが合意形成ではない」と思うため、少なくとも授業参観者には、そのことを伝達する必要性があると感じた（授業前にオリエンテーションがあつてもよいかもしない）。

- 特別活動部会として、今後も「キャリア教育」や「話し合い活動の充実」を軸に研究を進めたいという意見が多くみられた。教科横断的な視点での研究も視野に入れたいという要望もあった。

<特別支援教育部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[東部地区]

- 録画ビデオ視聴の授業は、2画面で生徒の様子や先生の関わりが分かり、見る視点が絞っていてよかったです。また、同時に授業記録が配付されていたことで一層分かりやすかった。

- 人とのコミュニケーションが苦手な生徒にとって、生成AIやICTを活用することは、活動のハードルを下げ、興味関心をもって授業に取り組むことに役立った。

- 他者評価を行うことによって、自分自身のことも振り返って考えることができていたのがよかったです。自信がつき、今後の生活に生かすことのできるスキルにつながると感じた。

- 本時のビデオに加えて、次時の様子も見せてもらえ、成長ぶりが伝わってよかったです。

[西部地区]

- 授業参観ではなく録画ビデオ視聴したことにより、生徒のあらゆる面の負担を減らすことができ、かつ生徒の普段の様子を見ることができてよかったです。

- 3台のカメラを準備したことによって、黒板に書いてある内容やそれぞれの生徒の取り組む様子等、細かい部分まで同時進行で見ることができてよかったです。

- 射水市として掲げている「つなぐ」という独自の研修テーマと絡めて研修を行ったことで、全教員が生徒に身に付けさせたい力について共通理解することができた。

- 授業における支援について、①課題を生徒に発表させたりアドバイスを考えさせたりした点、②個性の異なる生徒とのスムーズなコミュニケーション、③教員からの手紙（自分のよさに気付く、モチベーションが上がる、自信をもつ）などの点がよかったです。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[東部地区]

- 障害のある生徒のビデオ撮りには、限界を感じことがある。

- 必要感をもたせるための工夫が必要であると感じた。

- 特別支援級も不登校傾向や別室等の生徒が増えている。研究授業を行う際の苦労が大きいと思われる。授業発表者を選ぶ際は、生徒が安定して登校できており授業におおむね参加して、授業の見通しがもてる生徒を担当している教師がよい。

- 生成AIとの会話だけでなく、実際の人との会話、コミュニケーションの場を経験することをどのように増やしていくかが課題である。

- ICTの活用について、今回では「会話」や「表情」について子供たちが目標を設定しており、「会話」だけだと生成AIを活用するのは効果的だったが、「表情」については検討する必要がある。

- 生成AIの活用法を生徒の実態や授業のねらいに合わせて活用できるように、教員が学びを深めなければならないと思った。

[西部地区]

- 教師や大きな声で話す生徒の声は十分に聞こえるが、つぶやき等の音声を拾うことができなかつた。ディクテーションソフトを使って、音声の文字起こしを試みたが不正確であったため活用には至らなかつた。マイクやディクテーションソフトの精選や活用方法に課題が残つた。
- うまくいった場面、いかなかつた場面等をピックアップして視聴できるともっとよかつた。
- 聞き取れない部分があつたので、途中で区切つて解説を交えながら視聴できるとよかつた。
- 協議（視聴）会場では、3画面を横一列に配置したほうが視線の移動が少なく、視聴しやすかつたのではないか。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

1 会場都市、会場校の決定

[東部地区]

- △魚津市や黒部市は2校しかないので、それぞれの市で会場校を出している。滑川と中新川が分離して運営をしてはどうか。
- △特別支援は授業をビデオ撮影して視聴する形式がずっと続いているので、授業を実施した学校で大会をしなくてもより全員が来やすい会場で大会をする方がよいのではないか（新川の先生にとつて富山市の中学校まで来ることはかなりの負担であると思うし、富山市から朝日町に向かうことも同様である）。

[西部地区]

- ・特になし
- 2 地区研究会
- ・特になし
- 3 資料の編集及び事前研修会
- ・特になし
- 4 資料の製本や配布 等
- ・特になし

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

[東部地区]

- 今回のようにたっぷり意見を出し合える運営をこれからも希望する。
- 東部地区の端が会場になる場合は、富山市内でも市外でも開始時刻を14時にしてほしい。

[西部地区]

- 協議会では、他地区の取組（交流学習や小中連携等）をもっと知りたい。

2 研究授業

[東部地区]

- 授業の録画を視聴するというスタイルが定番となっているが、授業者の先生が適宜解説を入れてくださつたことで、いろいろと気付きがあるものとなつた。

[西部地区]

- オンラインだと音声が途切れることがあるが、動画視聴だと音声も聞き取りやすかつた。

3 研究発表

- ・今回はなし

4 研究協議

[東部地区]

- 部会協議でのグループ協議をする際は、発表者や記録者を予め決めてほしい。事前に知らされた方が学びが深まると思う。
- 時間配分を工夫する必要がある。グループ協議が10分は短すぎた。それでは深まらないし、休憩は計20分もいらないと思う。

[西部地区]

- グループ協議の際、空席が多くグループができるないエリアがあった。椅子の数を減らしたり、詰めて座ることをアナウンスする人を配置したりすればよかつた。
- グループの役割分担や座席の位置関係が分かりにくかつた。
- 研究内容の項目に基づいた内容での協議会が設定されればよかつた（今回の協議会は、射水市の研修テーマに基づいた協議であった）。特に、特別支援体制の充実と、家庭や地域社会、関係機関等との連携推進等に関するテーマがよい。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

[東部地区]

- ・今回はなし

[西部地区]

- アドバイザー講義は有意義である。教師の指導改善につながる具体的な話や医療系・福祉系の話をもっと聞きたい。
- 自立、社会生活を見据えた支援は、指導の根幹に関わる考え方であるので皆で意識を共有できた意義は大きい。
- 医学的見地から、障害特性について直接お話を聞けたことがありがたかった。

V 各研究部会独自の意見や要望

[東部地区]

- ・生成AIの活用は、普段からの利用でより賢くなるので、普段の授業でも使って行くことが大事だと思う。その一方で、個人データの取り扱いやセキュリティがどのようにになっているか確認することと、絶対に安全ということがないことも確認の上で利用するかしないかを考えていく必要がある。オープンAIともつながっているということも考えるべきだと思う。
- △教科部会と別日にする意見も理解できるが、特に今回のように遠い学校での実施となると、学校発の時間もかなり早くなり、教科と同一日程の方がよい。
- △教科部会と別日を希望する。
- △アドバイザー講義がない年は、部会協議①のみを行うほうがよい。研究成果と課題を発表していたとき、それについて協議する時間を多く設けることで、時間配分も窮屈にならず研修が深められると考える。

[西部地区]

- 今後も特別支援教育部会の研究授業を行う上で、ビデオ視聴という方法は有効となってくると考える。そうであるなら、特別支援教育部会特有の準備や出張への配慮が必要であると思われる。
- 運営委員に射水市の教員もしくは会場校の教員を含めるべきであった。全体の動きを把握しているのが部会責任者のみであったため、準備に苦労した。
- 特別支援学級や通級の生徒の多様化は年々進んできており、生徒への配慮事項も多くなってきてている。また、授業当日の欠席や情緒面を心配する必要もあり、授業担当及び運営側の負担が他の部会に比べてかなり大きい。特別支援教育部会特有の研究授業のどちらについて再度考えていく必要がある。

<保健部会>

I 工夫・改善がみられた事項、効果的に成果のあったこと

【提案発表】工夫・改善が加えられたことや効果的に成果のあったと思われる事項

- 市内全ての中学校全学年で同じ保健指導が学級活動で実施できている体制が素晴らしい。養護教諭のマネジメント力が成果として出ていると思った。また、一人職の養護教諭が他校の養護教諭と一緒に指導案を毎年考え、研究が深まっていると感じた。
- 学級活動という軸が一つきちんとできているので、学校の実態に合わせて、他の取組を組み合わせるなど工夫して広げられるところがよい。
- 地区で組織的に、保健教育の準備や計画（校長会や校内での根回し、教育課程への位置づけ、教員への事前アンケート、養教同士知恵を縛った指導案や教材作成等）、実施されていることが素晴らしい。やりたいけどやれない（言い出せない、時間がない等）現状があるので、やらねばならぬ体制があることは心強い。
- 市内の共有フォルダ等を活用し、市内の養護教諭みんなで役割分担して作成している仕組みは、今後、研修をすすめる上で参考にしたい。
- 社会問題となっている健康問題を即時に取り入れるタイミングが素晴らしい、生徒が自分事として考えることができる「予防行動」という言葉に納得した。
- 一斉指導というスタイルの中でも、養護教諭の専門性を生かした音声付きのパワーポイント資料の作成等工夫がなされている。眼に見えないものを見る化して腑に落ちるような資料がとても効果的だった。
- H19年からこの活動が継続しており、市内どの学校も年間計画に位置付き、教職員の異動があつても、市内で統一されている為、何の違和感もなく担任の先生方に授業をしてもらえるのがよい。市内の中学生全体の健康意識が向上してよいと思う。
- 学級担任が学活（保健）授業を行うことで、授業後も生徒へ声をかけて、サポートできる点が良いと思った。
- 音声付きのパワーポイントの資料が、誰でも授業が実施できるし、次の年度でも実施ができる便利さがよいと思った。
- チーム学校を超えて、チーム射水としてH19年より学級活動の研究を継続している点がすばらしい。本市でもぜひやってみたい。
- 長年の研修の積み重ねの中で工夫と改善を繰り返し進められた指導や実践は、生徒個々の生活や健康づくり等に生かされ継続する意欲につながっていくと思う。

【部会協議】

- 昨年度はグループ協議がなかったので、今年度は他の市町村の先生方と協議ができてよかったです。(同様の意見多数)
- グループ協議の時間も人数もちょうどよく、グループで中心となった話を1つだけ発表するという方法が発表者の負担感もなく、たくさんのグループがあつたが聞いていて分かりやすかったです。(同様の意見多数)
- 聞きっぱなしはよくないので、グループ協議は今後も取り入れたらよいと思う。
- 部会協議ではグループによって協議する視点が分かれていたので、絞って話をすることができた。
- 5~6人の小グループでの協議会なので、自分の思い考え等、意見を発信しやすい。部会協議①のグループ研修の時間が20分程度で丁度よかったです。
- 発表地区の方が回っておられて直接質問することができ、素早く疑問を解消できた。
- 各グループの協議や発表により、課題や問題点また今後に生かしていく保健教育の実践内容等、共有でき、健康意識がさらに高められた。
- 参加者は事前にしっかり資料を読み、各自の意見をきちんと述べていた。各市との情報交換もできて顔を見ながら協議できることのありがたさを痛感した。
- 事前にワークシートを記入しての参加はとてもよいと思う。一人一人が資料をしっかり読んで、意見や思いをもって参加でき、グループ協議も効率的につながった。
- グループ協議が充実していた。他の地区の先生から貴重な学びを得ることができ、自校で取組を行う際に参考にしたいと思う実践が多くあった。

【授業力向上のためのアドバイザー講義】

- 講義が分かりやすく、養護教諭の心情にも寄り添ってくださり、気持ちよく受講できている。異なるテーマでお話を聞きたい。(同様の意見多数)
- 研究の進め方やまとめ方について学ばせていただいた。実践研究と聞くと大きな取組を想像していたが、日常の職務の中からどれだけでも見つけることができるのだと考え方方が変わった。また、1つの事例をとっても、同じ養護教諭という職種であっても個々で視点が異なることが分かり、物事を捉える際には、多くの人と意見を交流しながら進めていきたいと思った。
- ただ教育論文を書くという目的のためではなく、養護教諭としての視点で学校を見る、他の教員の視点を知って見方を増やしていく、そのことが学校全体の中での養護教諭の仕事につなげていく、という学びが得られ、大変参考になった。
- 私たちが普段あまり意識していない研究をテーマに、講演していただいたので、ありがとうございました。難しい内容を、短時間に濃縮していただけたのもよかったです。
- 日常的に行っている校内巡視だけでもいろいろな視点から研究できることを学んだ。同じ養護教諭でも、一人一人考え方や捉え方が違うことに気付くことができた。
- 鎌塚先生の話をきいて、研究は普段の日常業務からの「なぜ?」と思ったことや気がかりなことからテーマが始まることを教わり、養護教諭ならではの、保健室での悩みを研究材料にするのもおもしろいかもしないと思った。
- 研究という新しい視点から日常の執務を見直すきっかけとなった。演習では、ランダムに班になって話す良さがあった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【提案発表】

- 評価の観点は示されていたが、どのように評価・振り返りをしているか知りたかったので、各校の振り返りシートや実践カードを見られるとよかったです。
- 引用・参考文献等の出典元が分かるとよかったです。
- 同じ内容で保健指導することは利点もあるが、学校や学年で実態に差があるのではないか。それぞれの実態に合わせた指導内容の工夫が必要である。
- 自分の実践にも言えるが、事後の「継続化」や「家庭との連携」の手立ての工夫が大切だと思った。協議会や指導助言で出たアイディア(ほけんだよりやHPでの周知、生徒委員会活動や学校保健委員会の活用)を参考に取り組んでいきたい。
- 1回きりの授業で終わらず、生徒の意識を継続させていくために家庭との連携を考えていく必要があると感じた。
- 指導の際にICTを活用できればよい。他教科に比べてDX化が進んでいないように感じた。もっと活用することで取り組みの幅も広がると思う。
- 保護者へも健康課題のアンケートを依頼するなど、家庭の協力を得る工夫が必要。
- 授業後の意識を継続的に高める事後活動の工夫と評価の工夫が必要だと感じた。
- 他教科との連携等の位置付けを行うことも、系統立てた指導を推進する上で、必要になってくると思う。
- 実践したことを学校保健委員会や生徒会活動を通して、掲示物、ホームページ等に掲載し、継続した取組を、家庭との連携も視野に入れて取り組む必要がある。小学校との連携(地域広報誌での紹介)等をされると、さらに広がっていくのではないか。

【部会協議】

- 部会協議にもＩＣＴを活用したら時間をもっと有効に使え、深い協議になると思う（グループ内の人人がどのような意見をもっているのか把握できるように事前や当日に入力してもらう）。
- 質問は事前にアンケート等で会員に確認しておき、当日までに回答を準備しておくとよいと感じた。

【授業力向上のためのアドバイザー講義】

- 毎回、とてもためになる内容で、限られた時間の中での設定なので難しいとは思うがもう少し時間が長くてもよかつたと思う。（同様の意見多数）
- 講話の時間をもう少し確保できないか。せっかく遠方から来られていて、貴重な話を聞ける機会なのでもったいないと感じた。

III 大会前の諸準備、諸会合について大

- 各自で印刷する今的方法がよい。
- 事前の資料配付、ワークシート記入のおかげで、グループ協議や各グループの発表が充実し、実りある研修となった。
- 関係各所への大会資料の送付を郵送で行っていただき、大変ありがたかった。次年度以降もそうできるのであればお願ひしたい。
- 研究大会資料は余裕をもって配布され、大会参加心得、会場や駐車場棟、丁寧に案内され、ありがたかった。
- 例年と違う会場だったが、片付け等の時間が速星公民館より早く終えることができてよかったです。
- グループ協議の司会、記録（発表）が事前に決められていてよかったです。
- 一つのPDFになっている資料は見やすく、印刷がしやすかったです。
- 発表資料の枚数や発表時間が短くなってきて、提案地区の負担が減る流れができつつあり、大変ありがたい（今後も発表地区の負担を減らす方向でお願いしたい）。
- 研究大会の事後アンケートをフォーム回答にすると、運営の方々の集計等の負担軽減につながらないか。
- 机、椅子が設置されていたこともあり、会場準備は役員だけで十分だったと思う。が設置されていたこともあり、準備は役員だけで十分だと思う。

IV 研究大会当日の運営や内容について

- 今年度は他の部会と日程が1日ずれていたので、学校としては校内に残る人がいてよかったです。
- 県陸上競技場は、静かな環境の中で研修ができる、駐車場も広くてよかったです。
- スクリーンの映像を見るとき、前列2列ほどだけ電灯を消すだけで十分見える。部屋を全部暗くするとメモも取れず、資料も見づらかった。
- 部会協議やアドバイザー講義の時間の確保のために休憩時間を短くしてもよかったです。

V 各研究部会独自の意見や要望

- 来年度からオンライン開催ということなので、ありがたい。今回、スライドも細かい字になると後の方からは見えにくかったので、オンラインだとよく見えると思う。
- オンラインになると移動に時間がかかるなくてよい。
- 昨年度はグループ協議がなかったが、今年度は県内の養護教諭と一緒に協議できて学ぶことが多かった。来年度はオンラインでの実施になるが、後日でもよいので協議や情報共有できる場があるといい。
- 集合型研修だったので、講師から直接指導を受けることができた。オンラインでは難しい。何を大事にするのか、再考してほしい。
- 来年度からオンラインになるので自由に情報交換という時間は難しいかもしれないが他地区の話を聞くことができる貴重な機会であるのでブレイクアウトルーム等でも協議の時間はオンラインになつても設けてほしい。（同様の意見多数）
- 来年オンラインになったとしても、生徒が学校にいる日になると、落ち着いて研修はできない。他教科と同じ日で実施してほしい。
- オンラインで学校からの参加となると中断を余儀なくされるので、後日の配信による参加を可能にしてもらいたい。
- オンラインは会場への移動の負担はないが、集まった時のような充実した協議の場はもてないので、協議の仕方を工夫する必要がある。
- 来年度からオンラインに決定したが、養護教諭も一人職でつながりが大事。同期や知り合いの先生との雑談も有意義な時間で、次への意欲にもつながっていた。
- 一方的に話を聞く研修と研究主題解明のための協議を必要とする研究大会では主旨が違う。話し合いをするには対面に勝るものはないと思う。年に1度、全地区の養護教諭が集まる大事な機会なので、オンラインに固定しないでほしい。
- 次年度からはリモート開催だが、先生方と意見交流できる場があれば嬉しい。普段、意見交流する場がなく、そのような機会も減ってきてているように感じる。
- オンラインでの開催になるため、会員の参加する際の意識（事前に資料を読む等）に差がでてくるのではないか。

- 来年度は、オンラインによる初めての研修会で担当地区としては不安である。一堂に会しての研修会がなくなってしまうことに寂しさも感じる。オンライン研修との両立はできないものか。（2年に1回は全員で集まって実施など）
- リモートになることは大変残念。リモートの準備でさらに役員を中心に特定の人の負担が大きくならないか危惧される。
- オンライン開催は自校で参加できてありがたい反面、運営側になると機器の扱いを新たに習得する必要があり、運営する側の負担が大きい事業だと思う。
 - △オンライン移行にあたり、変更点や操作方法、当日、会場に集まる会員、協議等の持ち方などについて、後々、示していただきたい。
 - △オンラインの運営には、ＩＣＴに詳しい方にサポートに入ってもらえると心強い。
 - △オンラインでグループ協議をする際、1年目は市町村ごとで集まり意見を出し合う形にしてほしい。地区的会員であれば多々の意見を出し合えるのではないかと考える。
 - △研究発表は「学級活動」や「保健学習」に偏りがちなので、日常の健康相談・校内支援・保健室経営等、地道な現場実践を中心とした発表が評価されるようになってほしい。